

令和4年度
事業報告書



学校法人 行吉学園

目 次

I 法人の概要	1
1 基本情報	1
2 建学の精神・教育綱領	1
3 法人の沿革	2
4 学校・学部・学科等の定員と現員（令和4年5月1日現在）	3
5 学生・園児数の推移及び収容定員充足率（過去5年間）	4
6 教職員数の推移（過去5年間）	4
7 役員の概要（令和4年7月1日現在）	5
8 評議員の概要（令和4年7月1日現在）	6
9 理事会・評議員会の開催状況（令和3年度）	7
10 施設等の状況（令和4年3月31日現在）	9
11 法人組織構成図（令和4年4月1日現在）	10
II 事業の概要	12
1 主な教育・研究の概要	12
（1）卒業の認定に関する方針	12
（2）教育課程の編成及び実施に関する方針	12
（3）入学者の受入れに関する方針	12
2 令和4年度事業計画の進捗状況	12
（1）教育に関する目標を達成するための計画	12
（2）研究に関する目標を達成するための計画	14
（3）社会貢献に関する目標を達成するための計画	14
（4）学生の進路に関する目標を達成するための計画	15
（5）学生支援に関する目標を達成するための計画	16
（6）施設・設備に関する目標を達成するための計画	17
（7）入試広報に関する目標を達成するための計画	17
（8）幼稚園に関する目標を達成するための計画	17
（9）組織に関する目標を達成するための計画	18
（10）財政に関する目標を達成するための計画	18
別記（1－2）教育内容に関する目標（各学科・研究科等）を達成するための計画	19
① 神戸女子大学	19
② 神戸女子大学大学院	22
② 神戸女子短期大学	23
3 特記事項	25
（1）卒業者・修了者数の状況	25
（2）国家試験の受験・合格状況	26
（3）学修支援センター等	26
（4）国際交流事業	28
（5）図書館	27
（6）研究	30
（7）古典芸能研究センター	32
（8）学生	33
（9）保健室	35
（10）教職支援	36
（11）就職支援	38
（12）入試広報	38
（13）収益的事業	40
（14）幼稚園	40
（15）新型コロナウイルス感染症に対する主な取組み	42

目 次

III 財務の概要	4 4
1 決算の概要	4 4
(1) 貸借対照表関係	4 4
(2) 資金収支計算書関係	4 4
(3) 事業活動収支計算書関係	4 6
2 その他	4 7
(1) 有価証券の状況	4 7
(2) 借入金の状況	4 7
(3) 学校債の状況	4 7
(4) 寄付金の状況	4 7
(5) 補助金の状況	4 8
(6) 収益事業の状況	4 8
(7) 関連当事者との取引の状況	4 8
(8) 学校法人間財務取引	4 8
3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	4 8

I 法人の概要

1 基本情報

- (1) 法人の名称 がっこうほうじんゆきよしがくえん
学校法人行吉学園
- (2) 主たる事務所 兵庫県神戸市中央区港島中町四丁目7番2号
代表電話番号 078 (303) 4700
ホームページ <https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>

2 建学の精神・教育綱領

建学の精神

本学園の教育は 民主的で文化的な国家を建設して 世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある そのためには 人格の完成をめざし 平和的な国家および社会の形成者として 真理と正義を愛し 個人の価値をたっとび 勤労と責任を重んじ 自主的精神に充ちた心身ともに 健康な国民の育成に力をつくすにある

教育綱領

学術の研究を通して人生社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ 識見高く 心情豊かな女性を育てる

個性の伸長をはかり 社会に貢献しうる人材を育てる

勤労を愛し 義務と責任を重んじ 自律的に行動する態度を養う

宗教的情操を培い 謙虚にして愛情深く よく苦難に耐え 常に信念に生きる女性を育てる

明朗にして礼節あり 健康にして柔軟な心身の持ち主となり よく世代を導きうる女性を育てる

3 法人の沿革

昭和 15 年 11 月	神戸新装女学院を設立
" 21 年 9 月	財団法人神戸新装女学院に組織変更
" 25 年 4 月	神戸女子短期大学服装科を設置
" 26 年 2 月	学校法人行吉学園に組織を変更
" 41 年 4 月	神戸女子大学家政学部を設置
" 44 年 4 月	神戸女子大学文学部を設置
" 48 年 4 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置
" 59 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻を設置
" 61 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻、英文学専攻、日本史学専攻を設置
" 62 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科教育学専攻を設置
平成元年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学を設置
"	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻及び文学研究科教育学専攻に博士課程を設置
" 3 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻に博士課程を設置
" 4 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科英文学専攻に博士課程を設置
"	法人本部及び神戸女子短期大学を移転
" 5 年 4 月	神戸女子大学大学院文学研究科日本文学専攻に博士課程を設置
" 7 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻を設置
" 8 年 4 月	神戸女子大学文学部に社会福祉学科を設置
"	神戸女子短期大学に総合生活学科・食物栄養学科を設置
"	神戸女子大学瀬戸短期大学に生活専攻・食物栄養専攻を設置
"	神戸女子短期大学初等教育科を初等教育学科に名称変更
"	神戸新装学院を廃止
" 9 年 4 月	神戸女子大学大学院家政学研究科生活造形学専攻に博士課程を設置
" 10 年 6 月	神戸女子短期大学服装科・家政科を廃止
" 11 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学英語科を文化コミュニケーション科に名称変更
" 13 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の募集停止
" 14 年 7 月	神戸女子大学瀬戸短期大学文化コミュニケーション科の廃止認可
" 15 年 4 月	神戸女子大学瀬戸短期大学生活科の募集停止
"	神戸女子大学学校教育学専攻科の設置
" 16 年 5 月	神戸女子大学瀬戸短期大学の廃止認可
" 18 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科、文学部日本語日本文学科、文学部英語英米文学科、文学部神戸国際教養学科を設置
"	神戸女子大学文学部文学科、文学部社会福祉学科の募集停止
"	神戸女子短期大学専攻科保育専攻を設置（平成 23 年 3 月廃止）
" 21 年 4 月	神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を設置、同学部健康福祉学科を社会福祉学科に、神戸女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科に名称変更
" 23 年 4 月	社会福祉法人神女きずな会を設立し、神女中山手保育園を開設
" 27 年 4 月	神戸女子大学看護学部看護学科を設置
" 28 年 4 月	神戸女子大学大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
" 30 年 4 月	神戸女子大学文学部神戸国際教養学科を国際教養学科に名称変更
" 31 年 4 月	神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻を設置
令和 3 年 3 月	神戸女子大学附属高倉台幼稚園を廃止
" 3 年 4 月	幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園を設置
" 4 年 4 月	神戸女子大学心理学部心理学科を設置
" 5 年 3 月	神戸女子大学学校教育学専攻科の廃止

4 学校・学部・学科等の定員と現員（令和4年5月1日現在）

（単位：人）

区 分	学部・学科等		入学定員	入学者数	収容定員	現 員	摘 要	
神戸女子大学大学院 (昭和59年4月設置)	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	8	16	16	
			後期	2	0	6	2	
		生活造形学専攻	前期	6	0	12	0	
			後期	2	0	6	0	
	(小 計)			18	8	40	18	
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	1	8	1	
			後期	2	0	6	0	
		英文学専攻	前期	4	0	8	0	
			後期	2	0	6	1	
		日本史学専攻	前期	4	1	8	3	
			後期	2	0	6	0	
	(小 計)			24	2	56	9	
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	9	8	14	
	看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	7	16	19	
			後期	3	2	9	14	
		(小 計)			11	9	25	33
	(合 計)			57	28	129	74	
神戸女子大学 (昭和41年4月設置)	家政学部	家政学科	80	50	320	322		
		管理栄養士養成課程	150	153	620	556		
		(小 計)	230	203	940	878		
	文学部	日本語日本文学科	60	47	240	210		
		英語英米文学科	60	33	240	196		
		国際教養学科	60	17	200	163	令和3年度定員変更	
		史学学科	60	42	240	212		
		教育学科	165	112	660	567		
		(小 計)	405	251	1,580	1,348		
	健康福祉学部	社会福祉学科	80	61	320	259		
		健康スポーツ栄養学科	80	64	320	263		
		(小 計)	160	125	640	522		
	看護学部	看護学科	90	79	360	348	令和元年度定員変更	
	心理学部	心理学科	80	81	80	81		
(合 計)			965	739	3,600	3,177		
学校教育学専攻科			15	1	15	1		
神戸女子短期大学 (昭和25年4月設置)	幼児教育学科		80	42	160	84	令和2年度定員変更	
	総合生活学科		100	61	200	130	令和2年度定員変更	
	食物栄養学科		60	42	120	96	令和2年度定員変更	
	合 計		240	145	480	310		
幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園 (令和3年4月設置)			※54	50	170	155	幼稚園から移行	
総 計			1,331	963	4,394	3,717		

* 認定こども園の入学定員欄は5歳児（卒園児）の定員を表す

5 学生・園児数の推移及び収容定員充足率

(毎年度5月1日現在：人)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
大 学 院	家政学研究科	博士前期	11	10	10	12	16
		博士後期	6	7	4	3	2
	文学研究科	博士前期	6	5	4	4	4
		博士後期	6	6	5	6	5
	健康栄養学研究科	修士課程	7	8	8	9	14
	看護学研究科	博士前期	—	9	15	19	19
		博士後期	—	5	8	13	14
	合 計	博士前期	24(修士を含む)	32(修士を含む)	37(修士を含む)	44(修士を含む)	53(修士を含む)
		博士後期	12	18	17	22	21
収容定員充足率		34.6%	43.5%	42.9%	51.2%	57.4%	
大 学	家政学部	990	981	945	914	878	
	文学部	1,673	1,716	1,703	1,598	1,348	
	健康福祉学部	564	584	594	543	522	
	看護学部	352	361	357	353	348	
	心理学部	—	—	—	—	81	
	合 計	3,579	3,642	3,599	3,408	3,177	
	収容定員充足率		105.9%	106.5%	104.0%	97.7%	88.3%
	学校教育学専攻科		2	0	0	0	1
短期大学	幼児教育学科	174	159	145	110	84	
	総合生活学科	179	193	205	174	130	
	食物栄養学科	188	186	151	117	96	
	合 計	541	538	501	401	310	
	収容定員充足率		79.6%	79.1%	73.7%	69.1%	64.6%
幼稚園 (認定こども園)	合 計	159	140	158	155	155	
	収容定員充足率		79.5%	70.0%	79.0%	96.9%	91.2%

6 教職員数の推移 (過去5年間：毎年5月1日現在)

(単位：人)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
本務教員	神戸女子大学	181	185	186	182	190
	神戸女子短期大学	40	38	36	34	32
	高倉台幼稚園	7	8	13	13	13
	合 計	228	231	235	229	235
兼務教員	合 計	314	318	326	327	327
本務職員	法人本部	9	8	8	9	8
	神戸女子大学	72	68	71	74	76
	神戸女子短期大学	11	10	10	7	7
	高倉台幼稚園	3	3	3	3	3
	合 計	95	89	92	93	94
兼務職員	合 計	142	132	97	122	135
本務教職員合計		323	320	327	322	329

* 本務教職員 (平均年齢) 教員 51.6 歳・職員 51.5 歳、(平均勤続) 教員 12.1 年、職員 17.5 年 [令和4年5月1日現在]

7 役員概要（令和4年7月1日現在）

(1) 理事

[定数：8名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
理事長	行吉 宜孝	常勤	平成22年6月29日 (平成31年4月1日 理事長就任)	
理事	栗原 伸公	常勤	平成30年6月29日	神戸女子大学長・神戸女子短期大学長
	前田 研史	常勤	平成31年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
	伊吹 眞澄	常勤	平成30年6月29日	(学) 行吉学園法人本部長
	多畑 寿城	常勤	令和4年4月1日	神戸女子大学・神戸女子短期大学事務局長
	今井 修平	非常勤	平成18年4月1日	
	根岸 成直	※非常勤	平成18年6月29日	
	小川 清四郎	※非常勤	平成30年6月29日	

※印：非業務執行理事

(2) 監事

[定数：3名 任期：4年]

区分	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	主な現職等
監事	横田 成樹	非常勤	平成26年6月29日	
	亀井 尚也	非常勤	平成23年5月27日	弁護士
	打越 信男	非常勤	令和3年6月29日	

(3) 責任免除・責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

ア 責任の免除

学校法人行吉学園寄附行為において次のとおり責任の免除等を定めている。

<p>(責任の免除)</p> <p>第47条 役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができる。</p> <p>(責任限度契約)</p> <p>第48条 理事（理事長又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。</p>

イ 責任限定契約

対象役員の氏名	非業務執行理事 根岸 成直 ・ 小川 清四郎 監 事 横田 成樹 ・ 亀井 尚也 ・ 打越 信男
契約内容の概要	非業務執行理事又は監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金30万円と、在職中に学校法人から職務執行の対価として受け、又は受けるべき役員報酬の1年間あたりの額に相当する額として私立学校法施行規則第3条の3に定める方法により算定される額に2を乗じて得た額との、いずれか高い額を限度として、損害賠償責任を負うものとする。ただし、損害額のうち責任限度額を上回る部分については当然に免責するものとする。
契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置	契約の内容として、役員が職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨を定めている。

ウ 役員賠償責任保険契約

団体契約者	日本私立大学協会	引受保険会社	東京海上日動火災保険株式会社
被保険者	記名法人……………学校法人行吉学園 個人被保険者……………理事、監事		
保険期間	2022年4月1日（午後4時）から2023年4月1日（午後4時）まで		
補償内容	(1) 役員（個人被保険者）……………法律上の損害賠償金、争訟費用等 (2) 記名法人……………法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等		
支払いの対象とならない主な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・被保険者が私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因する対象事由 ・被保険者の犯罪行為に起因する対象事由 ・法令に違反することを被保険者が認識しながら行った行為に起因する対象事由 <p style="text-align: right;">等</p>		
総支払限度額	5億円	保険料負担者	学校法人行吉学園

※当該保険契約の内容は、令和3年度第5回理事会（令和4年3月28日）決議に基づくものである。

8 評議員の概要（令和4年7月1日現在）

[定数：20名 任期：4年]

氏名	就任年月日	主な現職等
多畑 寿城	平成31年4月1日	神戸女子大学・神戸女子短期大学事務局長
山根 千弘	令和3年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
伊吹 眞澄	平成30年6月29日	(学) 行吉学園法人本部長
重藤 美江子	令和4年4月1日	(学) 行吉学園法人本部入試広報部部長
廣畑 俊介	平成18年9月8日	(学) 行吉学園法人本部学園企画部部長
山脇 喜子	平成30年6月29日	
羽多 悦子	平成30年6月29日	
市川 清美	平成30年6月29日	
糸井 亜弥	平成18年6月29日	神戸女子大学准教授
吉田 千佳子	平成18年6月29日	
行吉 則子	令和4年6月29日	
春木 和子	平成16年7月29日	
十一 玲子	平成14年6月29日	神戸女子大学准教授
吉田 幸世	平成18年6月29日	(学) 行吉学園技術職員
今井 修平	平成18年4月1日	
前田 研史	平成31年4月1日	神戸女子大学副学長・神戸女子短期大学副学長
森野 茂樹	平成18年6月29日	
木村 奈帆子	平成31年4月1日	幼保連携型認定こども園神戸女子大学附属高倉台幼稚園園長
浅木森 和夫	平成22年6月29日	神戸女子大学教授
池田 克	令和4年6月5日	神戸女子大学教育後援会会長

9 理事会・評議員会の開催状況（令和4年度）

(1) 理事会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数8名)		
			出席	欠席	計
1	令和4年 5月30日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告について ・令和3年度決算について 	8	0	8
2	令和4年 5月30日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院看護学研究科博士後期課程の共学化について ・令和4年度賞与支給率について ・改正公益通報者保護法の施行に伴う学内規程の整備について ・退任役員への功労金の支給について ・令和4年度入学試験の結果及び令和5年度入学試験等の概要について（報告） ・新型コロナウイルス感染者の発生状況について（報告） 	8	0	8
3	令和4年 6月23日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者である理事の選任について ・監事候補者の選出について ・法人職員である評議員の推薦について ・卒業者及び学識経験者である評議員の選任について 	8	0	8
4	令和4年 6月29日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員会が選任した理事について（報告） ・理事長の選任について ・理事長職務の代理者について ・退任する評議員への功労金の支給について ・神戸女子大学大学院学則の一部改正について ・監事の選任について（報告） 	8	0	8
5	令和4年 9月14日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学長に求める職務及び学長像について 	8	0	8
6	令和4年 11月8日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸女子大学学長及び神戸女子短期大学長の選考について ・神戸女子大学学長及び神戸女子短期大学長の選考理由、略歴及び所信に関する常任理事会の公表文書について 	8	0	8
7	令和4年 11月8日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸女子大学学則の一部改正について ・神戸女子短期大学学則の一部改正について ・令和4年度オープンキャンパスの状況について（報告） 	8	0	8
8	令和5年 3月29日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・法人職員である評議員の推薦について 	8	0	8
9	令和5年 3月29日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会が推薦し、評議員会が選任した評議員について（報告） ・令和4年度補正予算について ・令和5年度事業計画について ・学納金の見直しについて ・令和5年度予算について ・神戸女子大学大学院心理学研究科の設置構想について ・神戸女子大学学校教育学専攻科の廃止について ・神戸女子短期大学の入学定員見直しについて ・神戸女子短期大学長期履修制度の導入について ・学則の一部改正について <ul style="list-style-type: none"> (1) 神戸女子大学学則の一部改正 (2) 神戸女子大学大学院学則の一部改正 (3) 神戸女子短期大学学則の一部改正 ・役員賠償責任保険契約の締結について ・神戸女子大学文学部教育学科の学部化構想について（報告） ・天神寮の建て替えについて（報告） ・令和5年度入学試験の結果について（報告） ・新型コロナウイルス感染者の発生状況について（報告） ・教職員の異動（退職者・採用予定者）について（報告） 	8	0	8

(2) 評議員会

回数	開催 年月日	主な協議事項	出席状況 (定数 20 名)		
			出席	欠席	計
1	令和 4 年 5 月 30 日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院看護学研究科博士後期課程の共学化について ・令和 4 年度賞与支給率について ・改正公益通報者保護法の施行に伴う学内規程の整備について ・令和 3 年度事業報告について (報告) ・令和 3 年度決算について (報告) ・令和 4 年度入学試験の結果及び令和 5 年度入学試験等の概要について (報告) ・新型コロナウイルス感染者の発生状況について (報告) 	14	6	20
2	令和 4 年 6 月 23 日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・監事候補者の同意について ・理事会から推薦された評議員の選任について 	15	5	20
3	令和 4 年 6 月 29 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員である理事の選任について ・神戸女子大学大学院学則の一部改正について 	16	4	20
4	令和 4 年 11 月 8 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸女子大学学則の一部改正について ・神戸女子短期大学学則の一部改正について ・神戸女子大学学長及び神戸女子短期大学長の選考について (報告) ・令和 4 年度オープンキャンパスの状況について (報告) 	18	2	20
5	令和 5 年 3 月 29 日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会から推薦された評議員の選任について ・令和 4 年度補正予算について ・令和 5 年度事業計画について ・学納金の見直しについて ・令和 5 年度予算について ・神戸女子大学大学院心理学研究科の設置構想について ・神戸女子大学学校教育学専攻科の廃止について ・神戸女子短期大学の入学定員見直しについて ・神戸女子短期大学長期履修制度の導入について ・学則の一部改正について <ul style="list-style-type: none"> (1) 神戸女子大学学則の一部改正 (2) 神戸女子大学大学院学則の一部改正 (3) 神戸女子短期大学学則の一部改正 ・役員賠償責任保険契約の締結について ・神戸女子大学文学部教育学科の学部化構想について (報告) ・天神寮の建て替えについて (報告) ・令和 5 年度入学試験の結果について (報告) ・新型コロナウイルス感染者の発生状況について (報告) ・教職員の異動 (退職者・採用予定者) について (報告) 	18	2	20

10 施設等の状況（令和4年3月31日現在）

(1) 土地

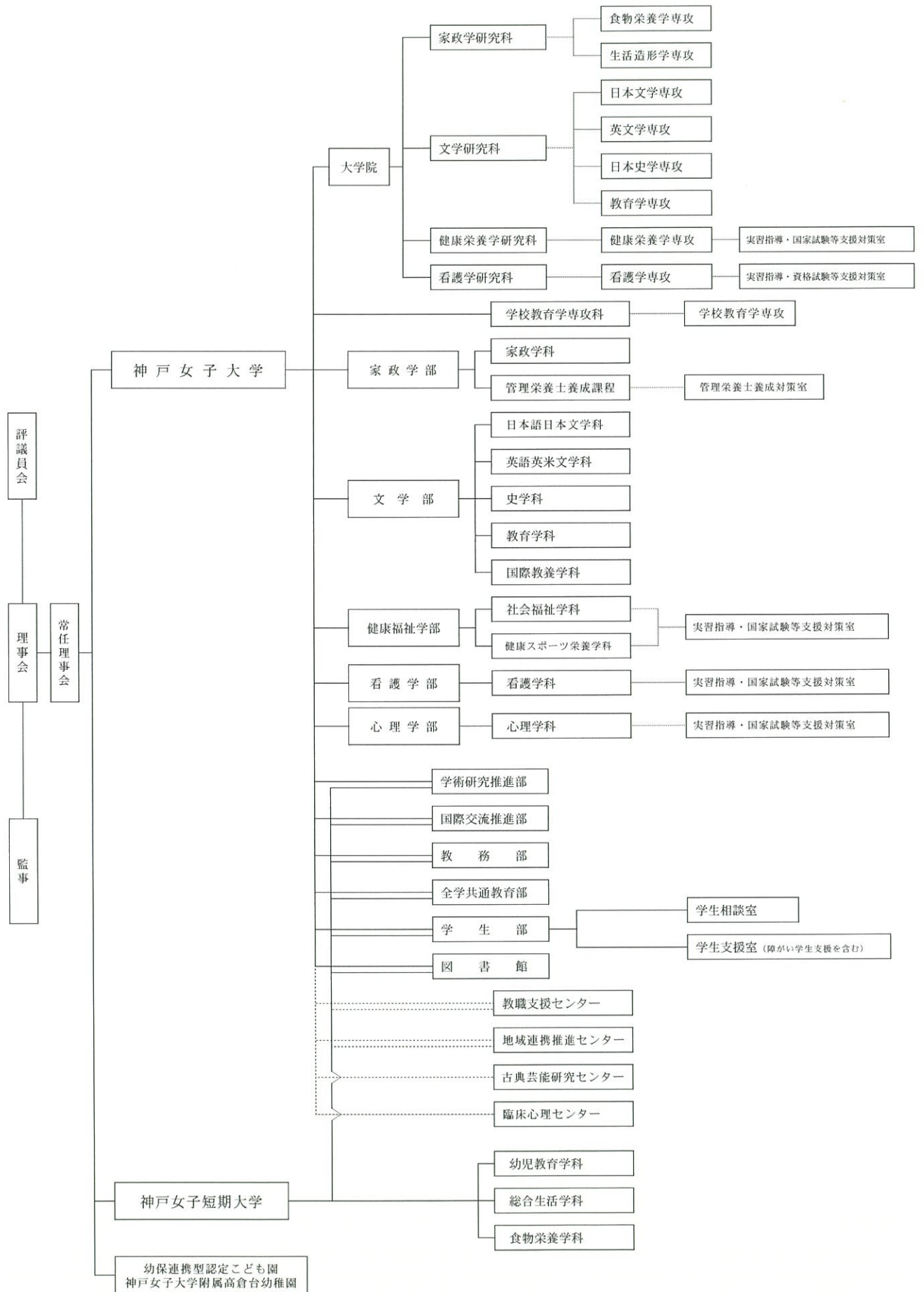
区 分	所在地	面積 (㎡)	摘 要
須磨キャンパス	兵庫県神戸市須磨区	133,389.12	神戸女子大学専用
PIキャンパス	兵庫県神戸市中央区	24,524.84	神戸女子短期大学専用
三宮キャンパス	兵庫県神戸市中央区	4,931.00	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
認定こども園 (神戸女子大学附属高倉台幼稚園)	兵庫県神戸市須磨区	2,566.58	認定こども園専用
小 計		165,411.54	
寄宿舍（行幸寮・天神寮）	兵庫県神戸市須磨区	3,128.13	神戸女子大学専用
セミナーハウス	米国ハワイ州ホノルル	683.65	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎	兵庫県神戸市須磨区	382.34	
合 計		169,605.66	

(2) 建 物

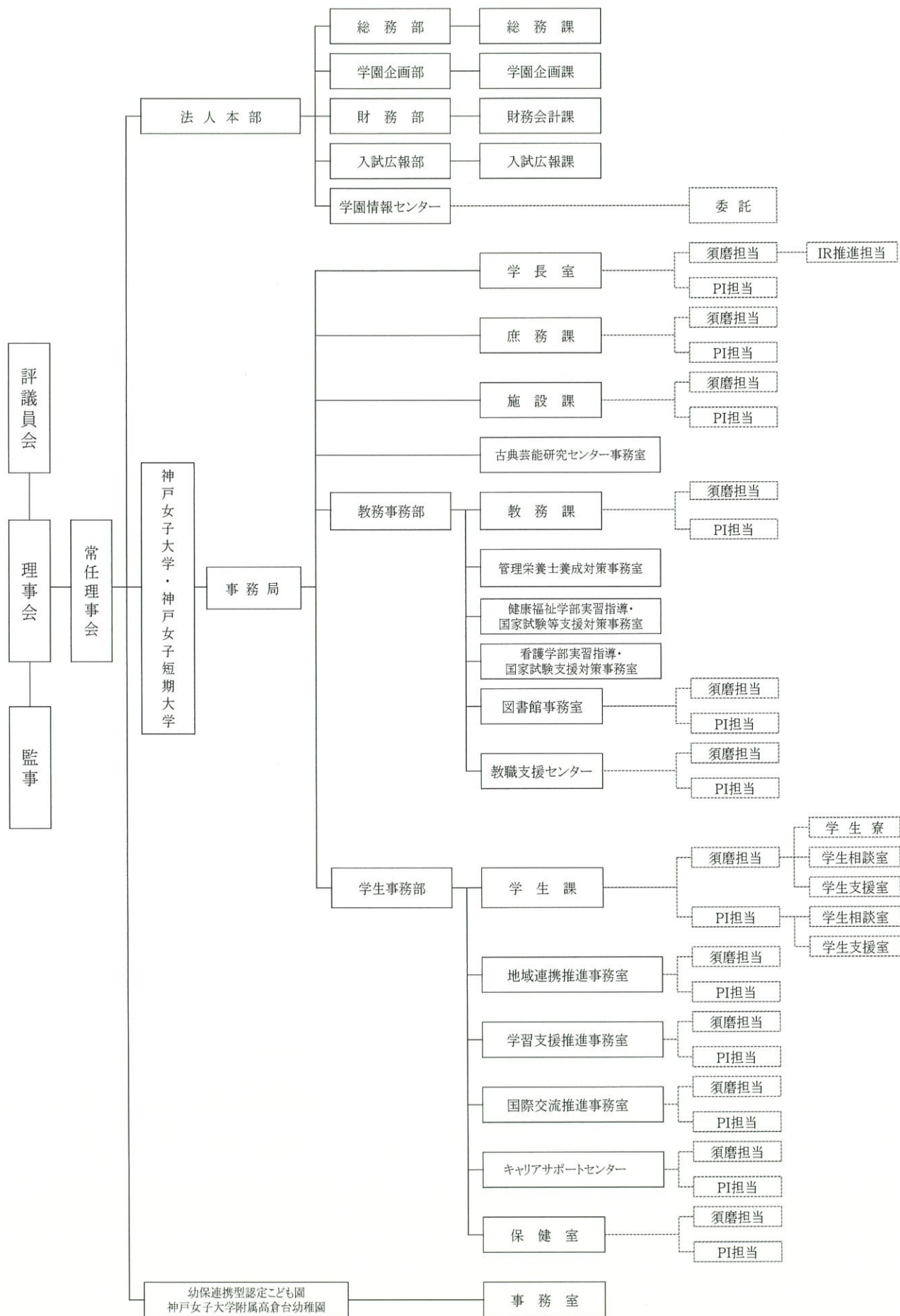
区 分	面積 (㎡)	摘 要	
須磨キャンパス (兵庫県神戸市須磨区)	校 舎	26,631.74	神戸女子大学専用
	体 育 館	3,460.50	
	図 書 館	6,081.45	
	実 験 室	57.60	
	守 衛 室	68.76	
	ク ラ ブ 室	986.85	
	食 堂	2,115.98	
	会 館	246.80	
	小 計	39,649.68	
PIキャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校 舎	10,855.36	神戸女子大学専用
		23,954.49	神戸女子短期大学専用
	守 衛 室	47.93	
	体 育 館	2,334.04	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
	小 計	37,191.82	
三宮キャンパス (兵庫県神戸市中央区)	校舎（体育館を含む）	7,085.46	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
認定こども園 (兵庫県神戸市須磨区)	校 舎	1,398.61	認定こども園専用
寄宿舍（行幸寮・天神寮） (兵庫県神戸市須磨区)		4,412.56	神戸女子大学専用
セミナーハウス (米国ハワイ州ホノルル)		1,074.67	神戸女子大学・神戸女子短期大学共用
職員宿舎 (兵庫県神戸市須磨区)		436.64	
合 計		91,249.44	

1 1 法人組織構成図（令和4年4月1日現在）

(1) 教学組織



(2) 事務組織



Ⅱ 事業の概要

1 主な教育・研究の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

本学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性に優れ、人類社会の発展に貢献する女性を育成することを教育目標とする。これら自立心、対話力、創造性を十分に備える者として、知識・技能、能力及び資質が各学部・学科及び課程の定める基準に達しており、かつ所定の卒業要件を満たした者に、学位を授与する。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程が定める人材育成・教育研究上の目的を達成するための教育課程を編成し、自立心、対話力、創造性を培う教育内容及び方法を実施する。

(3) 入学者の受入れに関する方針

建学の精神に基づき、本学の教育目標及び各学部・学科及び課程の人材育成・教育研究上の目的に定める人材を育成するために、多様な能力を身に付けた学生を求める。

※各学科・課程、研究科ごとの方針は本学のホームページを参照ください。

2 令和4年度事業計画の進捗状況

中期目標並びに中期計画を達成していくために、令和4年度に取り組むべき施策の中から主な施策について取りまとめた事業計画の進捗状況は以下のとおりである。

(1) 教育に関する目標を達成するための計画

【I-1】自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

- ・到達度調査は、点検・評価委員会の検証結果に基づいて内部質保証委員会で審議を行った後に、各学部・学科へフィードバックを行うことを進めた。
- ・短大では三つのポリシーの再編を目指して短大点検・評価委員会で検討の上、再編を行った。
- ・卒業生アンケートの調査結果の分析・検証を行い、各種事業の計画策定時に参照・活用されている。

【I-2】教育内容に関する目標(各学科、研究科等)を達成するための計画

- ・各学科、各研究科等の計画は別記のとおり

【I-3】教育内容に関する目標を達成するための計画

- ・ Society5.0 社会と AI 教育を見据えた共通教養情報科目に再編し、令和 5 年度から大学と短大が歩調を合わせた「数理データサイエンス AI リテラシー プログラム」科目を開始する。
- ・ 全学共通教育独自のカリキュラムポリシー (CP) を、令和 4 年度の「履修の手引き」に記載した。また、新しい CP に沿ったカリキュラムの再編、特に語学科目の再編成、情報教育の刷新など、STEAM 教育に根ざした基礎学力の育成方針を反映させた各科目の再編成に取り組んだ。
- ・ 教養総合、教養演習科目において「日本語関連科目」(令和 4 年度開始) などの新規科目の開講、さらに情報における「数理データサイエンス AI リテラシー プログラム (情報 A、B)」(令和 5 年度開始) の新規科目の開講を決定した。

【I-4】教育課程に関する目標を達成するための計画

- ・ 各学科に授業科目とディプロマ・ポリシー(DP)についての関連表の再点検を依頼し、一部科目については修正を行った。また新規科目についても DP との整合性を確認した。
- ・ 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」への申請に向けての大学・短大の科目名を同一にした。総合生活学科においては、規模の適正化への対応として科目区分の変更等により 12 科目の廃止を行った。
- ・ 令和 4 年度から授業時間が 1 限 105 分になったことから、単位と授業外学修時間についてオリエンテーションで丁寧でわかり易い説明を行った。

【I-5】教育方法に関する目標を達成するための計画

- ・ 全学的なファカルティ・ディベロップメント(FD)活動として「105 分授業成果報告」、「FD 研修会」を実施した。「105 分授業成果報告」では、各学科 1 名以上の教員の 105 分授業での取り組み状況を全学で共有することとした。合計 19 科目における取り組みの報告があった。
- ・ manaba「神女 FD ルーム」を活用し、FD 研修会の録画動画や各教員の 105 分授業における取り組みの成果を全学で共有した。なお、授業見学については、各学科での FD 活動としてそれぞれに適した形式で運用を行った。
- ・ 授業オンライン化に伴い、ほぼ全員が manaba を利用するようになった。
令和 4 年度の manaba 利用率 (令和 5 年 3 月末現在) は【大学】97%(のべ年間利用教員数 1,923 名)【短大】96%(のべ年間利用教員数 287 名)であった。

【I-6】国際化に関する目標を達成するための計画

- ・ 今年度は海外の現地留学が可能となり、令和 4 年 8 月、令和 5 年 2 月にハワイ大学英語研修プログラムを実施した。高麗大学語学研修や静宜大学交換留学プログラムも順次再開した。
- ・ 令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染拡大に対応しながら海外留学を計画したが、大幅な円安

が進み、留学費用が高額になった。その対策としてチェンマイ大学への春期短期プログラムなどの短期プログラムの開発を行い実施した。

- ・次年度実施に向けて、米国やドイツの海外留学プログラムの説明会及び面接を行った。
- ・グローバル・カフェを単なる語学カフェに終わらせず、内容を重視して実施した。ポーランドの大学とウクライナの大学の教員による「ポーランドにおけるウクライナ支援の現状について」と題した講義を行った。また、チェンマイ大学・ハワイ大学日本語パートナー・マンチェスター大学とのグローバル・カフェを開催した。

(2) 研究に関する目標を達成するための計画

【Ⅱ-1】研究業績に関する目標を達成するための計画

- ・業績評価基準の素案は作成済であるが、各学部・専攻間の差異が想定以上に大きくかつ複雑であり、さらに議論・検討を進めていく必要がある。
- ・社会貢献分野とも連携し、大学・短大双方に関わる学外研究費情報などの収集・周知に努めた。

【Ⅱ-2】学生の研究に関する目標を達成するための計画

- ・日本語日本文学科において、令和5年1月に学部生が参加できる形態の国文学会総会・研究発表会を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し、大学院生が発表した。
- ・健康スポーツ栄養学科では、基礎演習の科目の中で、大学院生と学部1年生が研究に関わる発表会を実施し交流の機会を設けた。
- ・看護学科では、同窓会開催時に卒業生の大学院生から大学院進学に関する思いを語ってもらい、進学への意識を高めた。
- ・国際教養学科では、今年度より開始した新カリキュラムの「国際教養学入門」において、学科教員の研究を紹介した。また、卒論ゼミで兵庫県立男女共同参画センター開設30周年記念企画次世代セミナーに参画し、ゼミ生1名が事例発表を行った。

(3) 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【Ⅲ-1】社会貢献に関する目標を達成するための計画

- ・公開講座については、新しい取り組みとして女性活躍推進講座「30代・40代のための私のオーダーメイド“きれい”プラン」を開催した。参加者30名だった。
- ・地域連携推進センター〈須磨キャンパス〉では、ボランティア参加者が昨年度の300名から626名と倍増した。須磨離宮公園とのキャンパスパーク連携では、子供の遊びに係るイベントやクリスマスリースの作成や配付、コーヒー同好会による出店などの各種イベントの実施、また、古典芸能センターの展示会等を行った。ゼミ単位の活動では神戸市森林植物園や須磨水族園でのイベントや、兵庫区での「地域安全マップづくり教室」を行った。学生の自主的な活動では「第2回北野ハイカラウォーキング」の開催、「神女サポート」支援を受けた学生同好会の5団体（須磨キャンパス／4団体・ポートアイランド(以下、PI)キャンパス／1団体）が地域交流活動を行った。子ども食堂の応

援は3か所に増えた。

- ・地域連携推進センター〈PI キャンパス〉では、神戸市民生委員児童委員協議会と協働し、民生委員・児童委員の体験型インターンシップを行い、53名の学生が参加した。また、社会福祉協議会と連携しタブレット教室を行った。
- ・六甲アイランド高等学校の「高校の探求の時間」に対して本学教員が高校生にアドバイスし、また審査委員として参画した。

(4) 学生の進路に関する目標を達成するための計画

【IV-1】進路支援に関する目標を達成するための計画

- ・S-NAVIを活用して令和4年3月卒生の「進路決定満足度調査」を実施した。回答者数は983名だった。調査結果では進路決定先に「とても満足している」「満足している」と回答した割合は、大学生で79.7%、短大生で75.8%だった。

【IV-2】専門就職に関する目標を達成するための計画

- ・キャリアサポートセンターでは、学科単位の小規模のガイダンスを実施した。学生と教員、キャリアセンタースタッフによる三者面談を実施する等、教員との連携を図った。
- ・教職支援センターでは、教員採用の多い自治体（4県3市／香川県、鳥取県、兵庫県、愛媛県、横浜市、川崎市、神戸市）の教育委員会を訪問した。また、訪問した各教育委員会へ「教職合同説明会」の企画を説明し協力をお願いした。
- ・教職支援センターでは、個人面談、面接指導、諸書類の添削・提出、個人面談の申込をS-NAVIで行うようにした。また、各自治体教育委員会の説明会や介護等体験事前指導についてもオンラインで実施することにより、両キャンパス同時開講が可能となった。
- ・教職支援センターでは、新しい企画として令和5年1月に教職合同説明会「神女教職フェア」を開催し、14自治体の教育委員会、135名の学生が参加した。このような取り組みは全国的にも初めてのものであり、今後も継続していく予定である。

【IV-3】優良企業就職に関する目標を達成するための計画

- ・学生が幅広く各業界に興味を持ってもらえるよう、令和4年9月に16社の企業を招致し、オンラインセミナーを実施した。延べ368名の学生が参加した。また、参加できなかった学生向けにmanabaでの視聴を案内し企業研究に役立つようにした。

主な参加企業は以下のとおりである。

住友電工情報システム、日本通運、加藤産業、ライフコーポレーション、明治安田生命保険、ウエルシア薬局など。

【IV-4】公務員就職に関する目標を達成するための計画

- ・「基礎Ⅰ」の授業で卒業生のオンライン体験談発表会を実施した。また、「基礎Ⅱ」の授業で就職活動を終えた4回生の体験談説明会を実施した。
- ・春のガイダンスを5回、7月ガイダンスでは「公務員ガイダンスと体験授業」を2回、北

陸地方、中国地方、四国地方のガイダンスを各1回、その後のガイダンスは、10月は2回、11月は5回と継続的に開催した。

- ・オンライン公務員フォーラムを令和4年10月18日（火）～11月2日（水）にかけて10日間実施した。各官公庁の採用担当者が仕事の魅力や業務内容、試験情報などの説明を行った。

【IV-5】Uターン就職に関する目標を達成するための計画

- ・S-NAVIの機能を活用し、過去4カ年の東京・兵庫・大阪・京都出身者を除いた卒業生の就職希望地、勤務地、または企業所在地のデータを集計し、Uターン希望者就職率を算出した。希望者106名中89名、84.0%の学生がUターン就職をしていた。
- ・中四国全県及び協定締結県の企業相談会や名刺交換会に参加し、関係を深める活動を継続して行った。コロナ禍の影響が収まり、開催数・参加企業数共に増加しており、11県で18回開催し、参加企業数は延べ164社だった。

(5) 学生支援に関する目標を達成するための計画

【V-1】学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

- ・授業改革に伴う通学の混雑緩和、利便性向上のため、バス路線の運行強化や新規路線の運行を始めた。
- ・学園祭を対面形式1日開催で行った。ただし、コロナ対策として参加対象は在学生のみとした。飲食無しの模擬店、各種企画、学友会・クラブ活動勧誘など活発な交流が行われた。トークショーは両キャンパスとも盛況であった。
- ・PI4大学連携事業「ポーアイ4大学マラソン」で本学の学生が最優秀賞を受賞した。国際交流に参加し、本学・神戸学院大学・兵庫医科大学の留学生と交流を深めた。
- ・障がいを持つ学生支援の体制強化の一環として、障がいを持つ学生や、配慮を要する学生支援のための「就労に関する個別相談会」を4回開催した。兵庫県専門機関による就労支援セミナー2回、キャリアサポートセンターと連携して保護者も参加できる就労支援セミナー1回、教職員を対象とした「学生支援に関するセミナー」1回を開催し、「改正障害者差別解消法」JASSO オンラインセミナーの紹介も行った。また、神戸市の「ヤングケアラー相談・支援窓口」との連携協定締結、「兵庫県障がい学生就労支援ネットワーク」への加盟登録を行った。
- ・学生アンケートの改善要望を受けて、ラウンジの改修、キッチンカーの導入を行った。PIキャンパスでのマーベルのパン販売、学生向け100円朝食販売を開始した。

【V-2】経済的支援に関する目標を達成するための計画

- ・須磨キャンパスでは、教職支援センターと連携して保育士修学支援制度8件の周知を図った。PIキャンパスでは、介護福祉士等9件、保育士10件、介護福祉士5件に関する情報提供を行った。新規採用者は介護福祉士11名、看護師1名であった。
- ・須磨キャンパスでは、自治体、公共団体の奨学金21件、奨学金返還支援制度9件、コ

コロナ対応支援金 1 件をとりまとめ KISS 配信・掲示にて周知を図った。自治体、公共団体の奨学金に 3 件推薦を行い、うち 2 件が採用となった。PI キャンパスでは、自治体、公共団体の奨学金 17 件、奨学金返還支援制度 12 件、コロナ対応支援金 1 件をとりまとめ KISS 配信・掲示にて周知を行った。

(6) 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【VI-1】施設・設備に関する目標を達成するための計画

- ・須磨キャンパスでは、図書館前の使われていない余剰スペースにウッドデッキを設置し、テーブル・イスを配置して屋外の休息スペースとして整備した。また既存の屋外テーブルには日除けパラソルを常設した。前期後半よりキッチンカーが図書館前スペースでの販売を始めて、学生も多く集う利用しやすい環境になった。
- ・須磨キャンパスのラウンジ改修については、企画立案に関わった学生の投票により施工業者を選定し、最終的な改修案を決定した。実際に利用する学生の意見・提案を集約した理想的な内装改修が実現できた。後期授業開始時から多くの学生に利用される空間となった。
- ・PI キャンパスでは、A 館・B 館・C 館の教室の LED 化及び A 館廊下の人感センサー付き LED 化への改修により学習環境の改善及び 30% の省エネを実現し、省エネ法の S クラスを達成できた。
- ・経年劣化の見られたテニスコートに人工芝を張り、安全な学習環境の改善になった。

(7) 入試広報に関する目標を達成するための計画

【VII-1】入試広報に関する目標を達成するための計画

- ・大学案内等の広報誌を HP に掲載した。高等学校へは教職支援センターや国家試験等支援対策事務室の学生支援体制について情報発信を行った。
- ・高校訪問及び高校教員対象の説明会において、新しい入試制度の内容をまとめた広報ツールを使って丁寧な説明を行った。また、進学相談会に併せて開催地域の高校訪問を行うなど活動エリアの拡大を図った。
- ・進学相談会は地域を広げ、参加回数を増やした。また、重点地域に対するデジタル広告や電車・バス広告を展開した。

(8) 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【VIII-1】幼稚園に関する目標を達成するための計画

- ・新たに 0 歳児の受け入れを開始した。保育計画を再編成し、教育・保育内容の充実を図るとともに、安全を重視した運営を行うことができた。
- ・保育教諭が研修を受ける機会を多く設けて、積極的に研修に参加するようにした。
- ・預かり保育は、2・3 号認定児と共に保育している。新型コロナへの対応を含め、安全面を考慮して定員を定めて受け入れを行った。利用者は年間で延べ 3,408 名だった。また、新たに長期休業中に給食を希望する 1 号認定児への昼食の提供を行った。

- ・土曜日を含む保育日数 306 日のうち、266 回完全給食を実施した。子ども達は毎日給食を楽しみにして登園し、様々な食材に触れ、食事を摂っていた。

(9) 組織に関する目標を達成するための計画

【IX-1】 定員充足に関する目標を達成するための計画

- ・大学短大ともに入学定員未充足の対策を図り、学園全体で志願者回復プロジェクトを立ち上げ、具体的な対応策の検討を図り、SNS の活用・オープンキャンパスの内容見直しなどを行った。
- ・社会情勢及び受験生の動向、他大学の改組等に関する情報等の情報収集を継続して行った。

【IX-2】 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

- ・令和 4 年度からの事務組織改編により学長室が人事委員会・部局長等会議・教授会の担当部署となった。各種会議の議案、スケジュール管理、開催案内など関連業務を集約した。
- ・PI キャンパスでは地域連携推進事務室・国際交流推進事務室・学習支援推進事務室を開設し、神戸市など学外との連携強化を図った。その中で新たに「女性活躍推進講座運営委員会」を立ち上げ、11 月に第 1 回目の公開講座を開催した。

(10) 財政に関する目標を達成するための計画

【X-1】 健全財政に関する目標を達成するための計画

- ・学園全体の ICT 化を目的に新しいグループウェアを導入した。「スケジュールや設備予約機能」から運用を開始し定着を図った。今後は「電子稟議」など各種申請を電子化し、ペーパーレス、時間レス等のコスト削減の実現を目指していく。
- ・令和 4 年度より両キャンパスにて「学生向け 100 円朝食」をスタートさせた。学生へのアンケートでは「学生向け 100 円朝食」は大変好評であり、今後も継続していく。また、寄付者の方々へは公式 HP 上でご厚志に対して感謝の意を表した。

(別記)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

神戸女子大学

文学部

日本語日本文学科

- ・日本語および日本語表現の基礎的、論理的な力をつけることを目標とした「日本語表現Ⅰ」、「日本語表現Ⅱ」について、教員志望の学部生の受講を促した。教職課程に関わる全教員が教員採用試験合格に向けての方策などを「教職研鑽会報告書」No.9に執筆した。さらに合格者体験記を盛り込むなど、「教職研鑽会報告書」を充実させた。
- ・新型コロナへの対策をした上で、体験学習として6月に能「松風」と文楽の芸能鑑賞を希望者のみの参加で実施した。1月には能「安宅」の鑑賞会を実施した。
- ・Zoomと対面とのハイブリッド形式で開催した内定者報告会において内定した4年生3名が下級生向けに体験を語った。同報告会は動画配信した。

英語英米文学科

- ・JALとの産学連携としてJALが派遣する2名の講師による授業を開講した。また、AIR DO(エア ドゥ)に勤務する卒業生とその上司のCAを招き、エアライン業界の仕事の内容や求められる能力について講演してもらった。航空業界はコロナ禍の影響で新規採用を控えていたが、令和4年度は航空業界の内定者は11名となった。
- ・情報化社会での新たな英語に対応するため令和5年度より「English for Information Technology」を新規開講する。
- ・新型コロナの影響で中止となっていたハワイ大学留学プログラムを令和4年秋期留学から再開した。英語力のレベル分けは現地で行い、参加した学生の習得度に応じた学習が提供された。

国際教養学科

- ・英語の授業で、非英語圏の英語のアクセントについて学んだ他、アクティブ・ラーニングにより学生が英語で発言する機会を多くすることが出来た。
- ・3回生の卒業論文中間報告会への参加を必須化した。卒業論文評価用のルーブリックを作成した。また、論文審査後に学部生による卒業論文ポスタープレゼンテーションを行うことを決定した。
- ・学科のオフ・キャンパス・プログラムを再開した。静宜大学交換留学プログラム、高麗大学プログラム、チェンマイ大学タイ短期プログラムを実施した。次年度のカリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校、ピッツァー大学、フライブルク大学、高麗大学派遣のための選考を行った。

史学科

- ・新型コロナ禍で実施出来ていなかった学外実習を再開した。専門ゼミでは平野郷町、五色塚古墳、鎌倉、フェルメール展、なら仏像館など学外実習を実施した。民俗学実習では、伏見稲荷大社を訪問した。また、博物館学芸員課程科目では、しおんじやま古墳、高槻市立今城塚古代歴史館などを訪問した。
- ・学科会議で課題解決型授業のあり方について検討を重ね、新しい取り組みとして1回生前期の入門演習ではゼミ単位で学外実習を行い、報告会もゼミ単位でプレゼンテーションを行った。
- ・キャリアサポートセンターとの連携強化として、3回生を対象にしたキャリアサポートセンター職員によるガイダンス実施や、4回生の就職内定者3名による体験談説明会を実施する等、史学科独自の取り組みを行った。

教育学科

- ・各教科の「教材研究」授業により専門性を強化し実践的指導力を身に付けることが出来た。また、教員採用試験対策の勉強を早めに着手した。令和4年度教員採用試験合格者のべ数は小学校103名、幼稚園・保育園22名だった。
- ・タブレット端末を用いて、小学校で導入済の授業支援ツールの活用やプログラミング教育の演習を実施した。また、遠隔授業室の電子黒板とタブレットを連動させたICT活用模擬授業を行うことで実践的指導力を高めることが出来た。
- ・中学校英語免許課程の充実に向けたカリキュラム改編を行った。また、新たに着任した英語教育学専門の専任教員により、授業内容の充実が実現した。

家政学部

家政学科

- ・令和5年の教員採用試験合格者は、兵庫県中学校1名、神戸市中・高等学校1名、奈良県中学校1名、和歌山県中・高等学校1名、川崎市中・高等学校1名、大阪市中学校2名、大阪府中学校1名となり、教員希望者全員が合格した。
- ・1～4回生及び大学院科目等履修生を対象に、大学院説明会を対面及びオンラインで3回実施した。また、オープンキャンパスにおいてポスター展示コーナーを設置し、卒業後の選択肢として大学院進学の周知を図った。さらに、3回生「卒業研究基礎演習」のキャリアガイダンスで修了生に体験談を語ってもらった。
- ・夏期休暇期間を活用して3回生の「フィールドワーク」の調査活動、卒業研究・制作活動、地域と連携したゼミ活動等を実施した。また、資格取得啓発や受験対策のアドバイス等を行うことで、夏期休暇期間中の学習意欲維持が出来るように指導を行った。その結果、色彩検定1級合格者4名、商業施設士補資格取得者46名等の各種資格試験の合格実績となった。

管理栄養士養成課程

- ・国家試験対策委員会と対策室が中心となり、補講の出席状況、課題提出状況、模試等の成績について、個々の学生ごとにまとめた資料を作成し、国家試験対策に活用した。
- ・学科のカリキュラム見直しを終了し、令和4年度入学学生から新カリキュラムに基づく学科教育を始めた。

健康福祉学部

社会福祉学科

- ・兵庫県進路選択学生等支援事業の助成金42万円を獲得し、パンフレット400部・チラシ300部を近隣の短期大学・専門学校・高等学校、神戸市内（兵庫区～東灘区）と芦屋市内の中学校約210校に送付した。出張講座は、進路選択学生等支援事業で12回、入試広報部からの依頼で28件、合計延べ40件を実施した。
- ・国家試験の結果は次の通り。
 - 社会福祉士／66名受験／合格率83.3%、精神保健福祉士／7名受験／合格率100%
 - 介護福祉士／15名受験／合格率100%なお上記の内、社会福祉士+精神保健福祉士W受験 7名中7名W合格
社会福祉士+介護福祉士W受験 15名中14名W合格
- ・福祉現場で活躍している卒業生4名を招いての「社会福祉研究交流会」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。卒業生の勤務先は「特別養護老人ホーム」「病院」「母子生活支援施設」「医療・福祉・介護施設」である。1回生は対面参加、2～4回生はZoomで56名が参加した。参加者からは「将来の就職先を考える良い機会になった」などの意見があり大変内容の濃いものだった。

健康スポーツ栄養学科

- ・新型コロナ禍のため、学部生は留学への参加は難しかったが、地域学習を中心にボランティア活動へは積極的に参加していた。
- ・高校へのスポーツ栄養学の出前授業を6つの高校で合計14回実施した。
- ・健康運動実践指導者資格合格者15名 合格率44.1%、第4回スポーツ栄養アドバイザー認定試験合格者28名 合格率78%、
- ・授業の中にスポーツに関する内容を含む授業は7科目となった。外部特別講師として柏レイソル小屋松知哉(こやまつともや)選手、ヴァンフォーレ甲府育成部長中村順氏、栃木SC松岡瑠夢(まつおか りむ)選手、日本テコンドー協会新山なつき(にいやま なつき)氏をお招きして講義を行い、授業展開の拡大を図った。

看護学部

看護学科

- ・第1回看護学部同窓会を対面形式で令和4年8月27日に開催し、20名の卒業生が参加した。学科から卒業生260名に対して、看護セミナー・同窓会・課題探究発表会等に

関するお知らせを配信した。9割の卒業生と連絡が取れた。卒業生専用コミュニティサイトの掲示板に大学院オープンキャンパス、同窓会、看護セミナー等のトピックスを5回あげた。

- ・保健師選択学生全員に公務員ガイダンスを実施した。保健師受験希望者には公務員直前対策講座を勧め、エントリーシートの記載方法や面談のアドバイスをを行った。その結果、3人の学生が保健師に内定した。
- ・卒業生を招聘し、卒業生による就職ガイダンスを開催し3回生全員が参加した。
- ・就職希望の学部生に対して、担任は就職面談を通しての支援、学生支援委員会は後方支援、キャリアサポートセンターには履歴書の作成や小論文の添削等の支援と、三者が一体となって就職支援を実施した。令和4年12月までに就職希望者100%の就職先が決定した。

心理学部

心理学科

- ・令和4年5月、PIキャンパスに「臨床心理センター」を開設した。開設記念講演会や無料相談会の開催、近隣の医療機関への広報活動などを行うことにより、来談者を着実に増加させることが出来た。
- ・パソコン必携化は新入生の入学時点で達成した。心理学科専門科目および「情報Ⅰ・Ⅱ」や「基礎Ⅱ」といった全学共通教養科目において、15科目中8科目/53%の授業で必携化されたパソコンが利用された。
- ・「地域学習」を受講した新入生の約5割が地域の諸機関・団体での活動に参加し、それぞれの活動の特徴や課題を認識することができた。「基礎Ⅰ」「基礎Ⅱ」においても、企業などからの講演者が示す課題に取り組み、課題解決を通して社会と心理学とのつながりを学ぶことが出来た。

神戸女子大学大学院

文学研究科

- ・日本史学専攻では、他大学の学生・院生との交流を図るため、国際シンポジウムや外部の学会に参加した。
- ・前期課程2年次生は日本史学専攻であり、2名とも公立資料館の学芸員に内定した。修了予定者の進路決定率は100%となった。

家政学研究科

- ・学部生に対して大学院生研究発表会参加を呼びかけた。また、学部の卒業論文発表会へ院生が参加するなどして、学部と大学院の一体感を醸成した。
- ・学部生向けの大学院進学説明会の回数を前年度対比増加させた。また、オープンキャンパスでも大学院コーナーを設け、パネル展示を行った。

健康栄養学研究科

- ・令和4年10月に開催された日本薬学会関西支部大会で3名の院生が発表した。
- ・リモートを活用することで、学部生が大学院生の間際発表会や修士論文発表会に積極的に参加できる環境が整ってきた。

看護学研究科

- ・学部生と大学院生が研究に関する話をする機会が少ないことから、学部4回生の「課題探究発表会」後に、各ゼミ単位で現役の大学院生や修了生から修士論文の話や進学に関することなどの話ができる機会を設けた。

神戸女子大学専攻科

学校教育学専攻

- ・少人数制の指導の利点を生かし、入学者に合わせて柔軟な授業展開を実施した。入学者のコミュニケーション力を高めることができた。その結果、川崎市（小学校）で任期付き正規教員の合格を果たした。

神戸女子短期大学

総合生活学科

- ・情報系資格として、MOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）の取得を促進した。「情報リテラシー」「情報基礎演習」「総合生活演習」の授業においてMOSの受験指導を実施し、受験者7名全員が合格した。
- ・総合生活学科の学びを特徴化する卒業生の履修モデルを作成し、進路支援に繋げた。また、オープンキャンパス等で対外的にも紹介した。履修モデルでは履修科目と就職先や大学編入などの進路との関係がわかるように、掲示用資料を作成した。
- ・ブライダルプランナー検定3級は受験生5名全員が合格した。フードコーディネーター3級は2名が資格取得した。秘書士は22名が資格取得した。プレゼンテーション実務士は6名資格取得した。サービス接客検定2級、準1級にそれぞれ8名が合格した。
- ・商工会議所が実施している簿記検定初級に6名が合格した。

食物栄養学科

- ・新年度カレッジアワーにて異学年交流を行った。本年度は2年次生により学内ツアーを通じて1年生との交流を行った。オープンキャンパスのスタッフ活動を2年次生が1年次生を指導し、異学年で学びあう機会となった。
- ・今年度は、神戸女子大学管理栄養士養成課程へ2名、他大学の管理栄養士養成課程へ4名が編入することとなった。
- ・学園祭にて、食栄ホームカミングデーを実施し、卒業生の参加を呼びかけた。

幼児教育学科

- ・令和4年度3名の「職業訓練生」を受け入れた。サポート体制をより充実させて令和5年度も受け入れを継続する。
- ・神女中山手保育園との交流行事「きずな DAY」の在り方を見直し、年間を通じて学科特別演習の学修成果の発表の機会としたことで、園児の発達に応じた保育実践力を身につけることが出来た。前期は「音楽遊び」「影絵」、後期では「造形表現遊び」「人形劇」「マリオネット」の上演を行った。
- ・「学科特別演習」の授業で既存の教育資源の「C505 茶室」や「ターシャの庭」を活用して、授業内容の工夫を図った。
- ・令和4年度入学生の2年次後期に開講される「在宅保育」の授業に全員履修できるように履修指導を行った。幼稚園教諭や保育士に加え在宅保育のプロとしての知識を得ることで、将来に向けての働き方の多様化を図ることができる。

3 特記事項

(1) 卒業生・修了者数の状況

令和4年度(9月卒業を含む)に所定の課程を修了し、卒業・修了した学生は以下のとおりである。

(単位:名)

区 分	学部・学科等		前 期	後 期	計
神戸女子大学大学院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	7	1	8
		生活造形学専攻	0	0	0
		(小計)	7	1	8
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	0	0	0
		英文学専攻	0	0	0
		日本史学専攻	2	0	2
		教育学専攻	0	1	1
	(小計)	2	1	3	
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻	5	—	5
	看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	7	0	7
(合計)		21	2	23	
神戸女子大学	文学部	日本語日本文学科	58		
		英語英米文学科	62		
		国際教養学科	46		
		史学	66		
		教育学	179		
		(小計)	411		
	健康福祉学部	社会福祉学科	74		
		健康スポーツ栄養学科	81		
		(小計)	155		
	家政学部	家政学科	89		
		管理栄養士養成課程	124		
		(小計)	213		
	看護学部	看護学科	88		
学校教育学専攻科		1			
(合計)		868			
神戸女子短期大学	総合生活学科		66		
	食物栄養学科		51		
	幼児教育学科		42		
	(合計)		159		

(2) 国家試験の受験・合格状況

令和4年度における国家試験(9月卒業を含む)の受験・合格状況は、以下のとおりである。

試験区分	年 度	受験者	合格者	合格率	全国平均合格	全国新卒平均
管 理 栄 養 士	令和4	122名	105名	86.1%	(56.6%)	(87.2%)
	令和3	158名	149名	94.3%	(65.1%)	(92.9%)
	令和2	166名	150名	90.4%	(64.2%)	(91.3%)
社 会 福 祉 士	令和4	66名	55名	83.3%	(44.2%)	(65.0%)
	令和3	55名	44名	80.0%	(31.1%)	(52.4%)
	令和2	61名	35名	57.4%	(29.3%)	(50.7%)
精 神 保 健 福 祉 士	令和4	7名	7名	100.0%	(71.1%)	(78.8%)
	令和3	6名	6名	100.0%	(65.6%)	(73.3%)
	令和2	10名	10名	100.0%	(64.2%)	(71.4%)
介 護 福 祉 士	令和4	15名	15名	100.0%	(84.3%)	(81.7%)
	令和3	18名	18名	100.0%	(72.3%)	(72.3%)
	令和2	18名	18名	100.0%	(71.0%)	(77.8%)
看 護 師	令和4	88名	88名	100.0%	(90.8%)	(95.5%)
	令和3	80名	79名	98.8%	(91.3%)	(96.5%)
	令和2	96名	95名	99.0%	(90.4%)	(95.4%)
保 健 師	令和4	20名	19名	95.0%	(93.7%)	(96.8%)
	令和3	20名	16名	80.0%	(89.3%)	(93.0%)
	令和2	17名	17名	100.0%	(94.3%)	(97.4%)
助 産 師	令和4	3名	2名	66.7%	(95.6%)	(95.9%)
	令和3	5名	5名	100.0%	(99.4%)	(99.7%)
	令和2	5名	4名	80.0%	(99.6%)	(99.7%)

(3) 学習支援センター等

【学習支援センター】

(参加延人数)

須磨キャンパス			P I キャンパス		
基礎科目 ミニ講座	理 科	8回(3名)	基礎科目 ミニ講座 (Zoom)	理 科	8回(0名)
	数 学	10回(20名)		数 学	10回(1名)
	国 語	8回(65名)		国 語	8回(0名)
	英 語	8回(27名)		英 語	8回(0名)
基礎科目 個別相談	理 科	週2回(50名)	基礎科目 個別相談 (Zoom)	理 科	週2回(0名)
	数 学	週2回(118名)		数 学	週2回(6名)
	国 語	週2回(29名)		国 語	週2回(3名)
	英 語	週1回(39名)		英 語	週1回(0名)
	理 科(C館1階)	週1回(9名)		理 科(C館1階)	週1回(1名)

【コモンズ・サポーター主催イベント】

令和4年6月29日シンジョ頭脳クイーン決定戦 開催、11月21日シンジョ頭脳クイーン決定戦 開催

(4) 国際交流事業

新型コロナウイルス感染拡大により中止していた学生の海外派遣及び海外からの研究者受入れを再開し、大きな問題なく予定通り実施することができた。海外の関係大学とのオンライン交流やグローバル・セミナーは継続して開催した。

ア. 海外研修プログラムの実施状況

(単位:名)

派遣先大学・機関等	プログラム名	派遣学生数		
		大学	短大	計
ハワイ大学	Semesterプログラム (後期) ※1	8	—	8
	英語研修 (夏期)	11	0	11
	英語研修 (春期)	9	0	9
高麗大学	韓国語研修	22	—	22
静宜大学	有料中国語プログラム	1	—	1
	交換留学 (派遣のみ) ※2	2	—	2
チェンマイ大学	サステナビリティ・グローバル・プログラム	6	—	6
合計		59	0	59

※1 日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度対象 ※2 HUMAP 留学生交流推進制度対象

【オンラインによる実施】

(単位:名)

プログラム名	参加学生数	学科
国際健康福祉プログラムⅢ (中欧州)	8	社会福祉

イ. 海外からの留学生・研究者受け入れ

【国費留学生】日本語日本文学科：ウダヤナ大学 1名

【ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 HORN 研究者交流事業】

チェンマイ大学公共政策研究科 准教授 1名 /国際教養学科

ウダヤナ大学医学部看護学科講師 講師 1名 /社会福祉学科

ウ. オンライン・プログラム実施状況

【オンライン・グローバルカフェ】

(単位:名)

プログラム名	実施回数	参加者学生数(延べ)		
		大学	短大	合計
マンチェスター大学オンライン会話喫茶(Conversation Café)	4	14	0	14
チェンマイ大学オンライン・グローバルカフェ	10	57	0	57
看護学部・チェンマイ大学看護学部との学生交流	1	4	0	4
ハワイ大学日本語カンパセーション・パートナー	22	61	0	61
ケント大学オンライン・おしゃべりカフェ	1	10	0	10
合計	38	146	0	146

【オンライン・グローバルセミナー】

(単位:名)

プログラム名	参加学生数
ポーランドにおけるウクライナ支援の現状について	16
世界を知ろうカフェ	12
合計	28

【その他オンライン・セミナー等】

(単位:名)

セミナー名	参加学生数	学科
第11回国際活動なんでも聞こう！カフェ(JICA 海外協力隊としてマラウイ共和国での活動経験のある看護師)	9	看護
第12回国際活動なんでも聞こう！カフェ(オーストラリア在住看護師)	5	
さくらサイエンス事業採択・「Connecting Wellness Tourism and Quality of Life (ウェルネスツールズと生活の質をつなぐ)」講義2日間、学生交流・発表5日間	※145	社会福祉

※神戸女子大学及びウダヤナ大学教員及び、その他関係者を含む

(5) 図書館

須磨・PI 共通

① 外国雑誌購読およびデータベース契約の見直し

短大資料費減額と新設学科予算無配分により総資料費が圧縮された中、毎年高騰を続ける外国雑誌は、円安により雑誌価格の値上がり幅が大きく、他の資料費を圧迫することになった。そのため、全学科に対し購読希望調査を実施し契約雑誌数の削減を図った。さらにアグリゲータ系電子ジャーナルデータベース契約についても、予算が圧縮されたことへの対応策として他社への契約転換を提案した。

② 「督促メール自動送信」および非常勤講師への「貸出罰則付与」機能の運用開始

貸出期限超過未返却者への督促業務の効率化を図るため、全利用者への督促メール配信機能の運用を開始した。また、すでに学生に適用している貸出罰則付与(貸出停止)を非常勤講師に適用し、未返却本の抑制を図った。

PI 図書館

① 初年度生で開催している教員との学科連携での「図書館リテラシー教育」として図書館での課題解決学習型でのアクティブ・ラーニング学習を再開した。上級生もオンライン等での開催が中心となっていたが、ハイブリッド形式等での文献検索ガイダンスを再開した。

② 社会問題を中心にテーマを定め、関連事項を広げていく形式での資料展示に力を注いでいる。令和2～3年度は新型コロナ関連の情報や資料を中心として資料収集と展示を行ってきた。令和4年度は「新型コロナ禍以降の社会情勢」「戦争と平和」「宗教2世問題」等幅を広げた展示資料による読書推進活動と教員とのアクティブ・ラーニング学習に力を注いでいる。

ア 図書館利用サービス

【須磨キャンパス】

開館時間(平日 19:30 まで・土曜日 10:00~17:00)

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
開 館 日 数	188 日	269 日	264 日
入 館 者 数	25,118 名	29,581 名	54,735 名
貸 出 冊 数	9,777 冊	10,778 冊	15,178 冊
貸出冊数 (1 名あたり)	3.5 冊	4.0 冊	6.3 冊
AV コーナー利用者数	0 名	56 名	218 名

【P I キャンパス】

開館時間(平日 21:00 まで・土曜日 10:00~17:00)

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
開 館 日 数	189 日	273 日	265 日
入 館 者 数	9,389 名	10,112 名	12,345 名
貸 出 冊 数	6,688 冊	7,742 冊	6,549 冊
貸出冊数 (1 名あたり)	2.9 冊	4.3 冊	2.3 冊
AV コーナー利用者数	6 名	10 名	6 名

注) 令和 4 年度は、両館とも、感染症感染防止対策を講じつつ、利用制限を徐々に緩和し、平日の開館時間は、授業改革に伴う授業時間変更に対応するため 19:30 まで延長した。PI の夜間開館は引き続き停止。

イ 資料受入状況

【須磨キャンパス】

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
蔵 書 冊 数	289,933 冊	292,403 冊	293,338 冊
図 書 購 入 冊 数	1,991 冊	1,666 冊	1,290 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	2,455 冊	3,837 冊	1,676 冊
視聴覚資料年間受入数	79 件 (68 タイトル)	38 件 (36 タイトル)	57 件 (41 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	2,930 冊	2,922 冊	2,922 冊
雑 誌 年 間 受 入 種 数	219 種	266 種	266 種

注) 除籍図書：令和 2 年度 (1,211 冊)、令和 3 年度 (1,367 冊)、令和 4 年度 (741 冊)

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

【ポートアイランドキャンパス】

区 分	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
蔵 書 冊 数	短大	121,958 冊	短大	122,895 冊	短大	123,944 冊
	大学	16,244 冊	大学	17,657 冊	大学	18,627 冊
図 書 購 入 冊 数	短大	1,657 冊	短大	1,570 冊	短大	1,698 冊
	大学	1,002 冊	大学	1,568 冊	大学	996 冊
図 書 年 間 受 入 冊 数	短大	1,873 冊	短大	1,588 冊	短大	1,734 冊
	大学	1,002 冊	大学	1,583 冊	大学	954 冊
視聴覚資料年間受入数	短大	88 件 (34 タイトル)	短大	35 件 (21 タイトル)	短大	42 件 (26 タイトル)
	大学	23 件 (17 タイトル)	大学	24 件 (19 タイトル)	大学	74 件 (23 タイトル)
雑 誌 所 蔵 種 数	短大	379 種	短大	379 種	短大	380 種
	大学	80 種	大学	81 種	大学	71 種
雑 誌 年 間 受 入 種 数	短大	187 種	短大	185 種	短大	186 種
	大学	65 種	大学	111 種	大学	101 種

注) 除籍図書：令和 2 年度 (書籍 712 冊、VHS 41 点)、令和 3 年度 (書籍 802 冊、視聴覚 721 点)、令和 4 年度 (書籍 762 冊、視聴覚 23 点)

注) 図書年間受入冊数：雑誌・視聴覚資料を除く

ウ 地域開放利用状況

【須磨キャンパス】

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利 用 者 数	0 名	0 名	3 名
貸 出 冊 数	0 冊	0 冊	5 冊

注) 図書館利用サービスの入館者数、貸出冊数から抽出して再掲

注) 令和 4 年度は、後期より利用再開

(6) 研究

① 研究活動の状況

各教員の研究業績等については、学校教育法施行規則の規定に基づきホームページ上で公開している。また、研究を支援するために外部資金獲得に向けた各種学会、協会及び民間企業等の研究助成に関する情報収集を行い、関係学部・学科等に提供することにより研究活動の促進に努めている。

② 科学研究費助成事業の採択

大学においては、応募件数 50 件、新規採択件数 12 件、新規採択率は 24%であった。継続分と併せた採択件数は 53 件 (54,077 千円) であった。今後も応募件数や採択件数の増加を目指し、学内個別相談会の開催、採択者の応募書類の公開など支援の一層の強化を図る。

短期大学においては、基盤研究(C)1 件、若手研究 1 件を申請し、そのうち新規採択は 0 件であった。今後も申請件数の増加を図る取り組みを展開する。

【科学研究費助成事業採択状況 (大学)】

(単位：千円)

研究種目	令和 3 年度				令和 4 年度			
	件数	直接経	間接経	合計	件数	直接経	間接経	合計
基盤研究 (A)	3	14,255	4,245	18,500	1	8,068	2,387	10,455
基盤研究 (B)	1	5,100	1,530	6,630	1	7,356	2,206	9,562
基盤研究 (C)	37	19,300	5,790	25,090	41	21,300	6,390	27,690
挑戦的萌芽研究	0	0	0	0	0	0	0	0
若手研究	9	3,700	1,110	4,810	8	3,000	900	3,900
研究活動スタート支援	0	0	0	0	2	1,900	570	2,470
合計	51	42,355	12,675	55,030	53	41,624	12,453	54,077

③ 産学連携活動の取り組み

企業等との共同研究や受託研究及び企業等との連携による商品開発等を積極的に推進した。

【企業等との共同研究や受託研究等の状況（大学）】

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
共同研究・受託研究（継続含む）	7件	7件	10件
技術相談受け入れ件数	1件	0件	0件
特許の申請状況	0件	0件	0件

【商品開発等（大学）】

	企業名	内 容
1	生活協同組合コープこうべ	運動機能向上を図る資料の作成
2	株式会社ミーニュー	食品ロスレシピ作成
3	株式会社サンエス	ユニフォームウェアの開発
4	株式会社ローソン	お弁当の開発
5	神戸市、須磨離宮公園	バラのパウダーを利用したレシピ開発

④ その他外部資金の採択状況

【大学】

	交付元	研究課題名
1	令和4年度 学術研究助成 (公益財団法人エリザベスアーノルド富士財団)	「脱脂米糠のアレルギー抑制効果の検討」
2	令和4年度 学術研究助成 (公益財団法人エリザベスアーノルド富士財団)	「高血圧モデルラットにおける米ぬか由来フェルラ酸の継続的経口摂取による血圧上昇抑制効果とその機序」
3	令和4年度 研究助成 (公益財団法人日本食品化学研究振興財団)	「アルギン酸ナトリウムの慢性的経口摂取による血圧上昇抑制効果」

【短大】

	交付元	研究課題名
	該当なし	

(7) 古典芸能研究センター

① 所蔵資料公開事業

人間文化研究機構 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク」事業への協力（「新 日本古典籍総合データベース」参入）

② 刊行物

『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』16号

『伝説・物語の神戸を歩く』（神戸女子大学古典芸能研究センター編、令和4年7月、神戸新聞総合出版センター発行、本体価格1,800円（税込1,980円））

⑤ 展示（於古典芸能研究センター展示室）

ア 写真展「ひょうごの祭り暮らし」R4/4/11～5/27

イ 古典芸能研究センター編『伝説・物語の神戸を歩く』刊行記念展示
「資料でたどる 古典芸能の舞台 神戸」R4/6/22～9/2

ウ 企画展「菅公さんのイメージ ～怨霊から学問の神へ～」R4/9/26～11/30

エ 「写真家 佐藤順子の見た 阿波人形浄瑠璃」R5/2/6～3/31

オ 今月の資料...10回（ホームページでも公開）

⑥ 特別講座(神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ秋期講座参加)

「菅原道真の怨霊と信仰・芸能」R4/9/28～11/30（隔週水曜日）5回

⑦ 特別企画

ア 古典芸能研究センターお勧めの古典芸能鑑賞 能楽

R4/6/19 於上田観正会能楽堂

照の会×神戸女子大学古典芸能研究センター

「神戸ゆかりの能」古典芸能研究センター編『伝説・物語の神戸を歩く』刊行
記念参加者：52名（学生31名、教職員等5名、オープンカレッジ受講生2名、
センター関係者14名）

R5/1/15 於兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール

「新春 にしのみやでう！」日本全国 能楽キャラバン！

参加者：47名（学生37名、教職員5名、センター関係者5名）

⑥ 神戸女子大学古典芸能研究センター特別展示

「写真家 佐藤順子の見た 阿波人形浄瑠璃」

会場：神戸市立須磨離宮公園内 和室（※CP連携に基づく）

会期：令和4年12月3日（土）～12月18日（日）【会期14日】

入場者数：356名

(8) 学生

国の修学支援制度の諸手続きを行うとともに、コロナ禍により影響を受けた学生への経済的支援として、本学独自の授業料等減免を実施した。学園独自の奨学金制度の改正により、成績優秀学生及び奨学生への支援を強化することで幅広い支援体制を整備した。さらに短期大学においては寄附金による奨学金の新設により、経済的に困窮した学生への支援を拡大した。また、令和2年度に制定した障がい学生支援に関する規程及びガイドライン等に基づき支援体制の強化を図るとともに、ハンドブック化に向けた検討を行った。

① 奨学金の採択状況

【日本学生支援機構奨学金】 採用種別奨学生数の状況
(大学)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	学校教育学専攻科	合計	利用者の割合	学生数 R4.5.1
貸与 第一種(無利子)	175	166	162	182	9	0	694	21.34%	3,252
貸与 第二種(有利子)※	190	166	214	192	0	0	762	23.43%	
貸与奨学金のいずれか	301	286	295	321	9	0	1,212	37.27%	
給付奨学金(旧制度1名含む)	74	87	66	93			320	9.84%	
新制度	第Ⅰ区分	46	44	38	52		180		
	第Ⅱ区分	17	26	15	26		84		
	第Ⅲ区分	6	11	6	5		28		
	休止中	5	6	7	9		27		
旧制度	0	0	0	1			1		
給付・貸与奨学金利用者	326	323	323	353	9	0	1,334	41.02%	

(短大)

(単位：名)

採用種別等	1年次	2年次	合計	利用者の割合	学生数 R4.5.1	
貸与 第一種(無利子)	30	30	60	19.35%	310	
貸与 第二種(有利子)※	36	40	76	24.52%		
貸与奨学金のいずれか	56	63	119	38.39%		
給付奨学金	23	25	48	15.48%		
新制度	第Ⅰ区分	13	15	28		
	第Ⅱ区分	5	7	12		
	第Ⅲ区分	1	0	1		
	休止中	4	3	7		
旧制度	0	0	0			
給付・貸与奨学金利用者	66	75	141	45.48%		

※第二種には、入学時特別増額貸与(一時金貸与者)を含む

【行吉学園奨学金制度・神戸女子大学大学院授業料等免除】

(単位：名)

所属	学年等	神女優秀者応援		神女経済支援		大学院 授業料等 免除制度	特別 授業料等 減免制度	西川貴子 奨学金
		優秀者 表彰型	奨学生 応援型	家計 急変型	災害 支援型			
大学	1回生	—	—	0		—	—	—
	2回生	10	1	1		—	—	—
	3回生	10	4	1		—	—	—
	4回生	10	6	0		—	1	—
大学院	修士・ 博士前期	—	—	—		47	—	—
	博士後期	—	—	—		5	—	—
小計		30	11	2		52	1	—
短期大学	1年次	—	—	0		—	—	5
	2年次	3	1	0		—	—	1
小計		3	1	0		—	—	6
合計		33	12	2		52	1	6

※神女優秀者応援優秀者表彰型：前年の成績優秀者を学科から推薦し表彰するもの。10万円を給付

※神女優秀者応援奨学生応援型：貸与奨学金受給者かつ学業及び学生生活で優秀な成果を上げたもの。

30万円または50万円を給付。

※神女経済支援家計急変型：在学中の家計急変による修学継続援助。授業料、教育施設充実費の半額を免除

※神女経済支援災害支援型：在学中に生計維持者又は学生本人が災害等の被災者となったもの。

授業料、教育施設充実費の半額を免除

※大学院授業料等免除制度：授業料の半額又は全額、授業料及び教育施設充実費の半額または全額を免除

【大学・短大関連団体の奨学金】

No.	奨学名称	区分	金額	年次	人数
1	神戸女子大学教育後援会 育英奨学生奨学金	給付（年額）	200,000円	2～4年次	0名
2	青山会（大学同窓会）		後期分授業料等円	4年次	0名
3	かなめ会（短期大学同窓会）		授業料等の半額	2年次	0名

※神戸女子大学同窓会青山会の給付額は、給付者の在籍学科により給付額が異なる。

【新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援】

(単位：名)

名称	区分	金額	人数		
			大学	短大	大学院
行吉学園新型コロナ禍における経済的支援 対策 行吉学園特別授業料等減免制度	授業料等免除	300,000円	1名	0名	—

② 学生表彰の状況

学生表彰制度に基づく令和元年度の表彰者は下表のとおりである。

【大学】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者（学部生）	10名	－
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	－	－
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	－	3団体
4	公的機関から表彰された者	1名	－
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	6名	7団体

【短大】

表彰区分		個人	団体
1	学業優秀で品行方正な全学生の模範となる者	3名	－
2	課外活動において特に優秀な成果を挙げた者	－	1団体
3	社会貢献活動において社会的に高い評価を受けた者	－	－
4	公的機関から表彰された者	－	－
5	学内外の活動において他の模範となる行為があった者	－	2団体

② 学生寮の利用状況

(単位：名)

区分	年度	定員	入寮者	残数	入居率
行幸寮	令和4年度	108	97	11	89.8%
	令和3年度	108	105	3	97.2%
	令和2年度	108	108	0	100.0%
天神寮	令和4年度 (留学生+療養室除く)	36	36	0	100.0%
	令和3年度 (留学生除く)	38	36	2	94.7%
	令和2年度	70	58	12	82.9%
計	令和4年度	144	133	11	92.3%
	令和3年度	146	141	5	96.5%
	令和2年度	178	166	12	93.3%

(9) 保健室

令和4年度より授業時間の変更に伴い、保健室の開室時間を9時から19時として対応した。

保健室の大学生利用状況は、令和3年度と比較して約1.6倍の利用状況が見られた。

新型コロナウイルス感染症は、第6波、第7波、第8波と繰り返し、急拡大が収まらない状況において、本学でも感染者の増加が確認されたが(令和5年3月末累計770名)、学内でのクラスター発生は無かった。

特に保健室では以下の項目の通り、感染者等への保健指導、学生及び教職員への感染予防啓発等に努めた。

- ア 感染者と濃厚接触者に対する健康調査と保健指導
- イ 学生に対する感染情報の提供や感染予防についての健康教育
- ウ 不安解消のための健康相談の実施

エ 衛生委員会、保健管理委員会等での情報共有

学生相談室では、コロナ禍の取り組みとして、通常どおり開室したうえ、カウンセリングを基本としつつ、電話またはメールによる相談にも対応した。須磨分室の学生利用状況は、令和3年度と比較して約1.6倍の利用状況が見られた。

【保健室の利用状況（教職員を除く）】

(単位：件)

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
学生利用	1,117	762	453	1,772	1,463	769	2,627	2,410	775
	1,879			3,235			5,037		
学校医による健康相談	1			0			0		
嘱託医による精神保健相談	24			25			32		

【学生相談室の利用状況（保護者と教職員を除く）】

(単位：名/実数)

	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	大学		短大	大学		短大	大学		短大
	須磨	PI		須磨	PI		須磨	PI	
相談実人数	29	9	9	33	18	8	54	20	5
	38			51			74		
相談内容別実人数	学業	0	0	4	0	2	0		
	進路	1	0	1	0	1	0		
	心理	32	9	45	8	70	4		
	生活	3	0	0	0	0	1		
	その他	2	0	1	0	1	0		

※令和2年度、3年度、4年度は、電話やメール相談を含む実人数である。

(10) 教職支援

① 大学

大学では、コロナ以降「オンライン」の活用を習慣化させ、いつでもどこでも相談、学習支援ができる体制を組んで指導に当たった。ライブラリーコモンズとの共同企画として、英語ガイダンス、数学ガイダンス、個別の学習支援、また、本学学生が最も苦手とする理科分野の早期克服を目標とした「Essential Science」を開催するなどの筆記対策を行った。このような取り組みが長期休暇中も教職支援センターでの自学学習の習慣化につながり、令和4年度は1次合格者174名となった。卒業生支援としては、情報交換ツールとしてSNSを活用し同じ自治体に就職した卒業生グループを作り、活発な情報交換が行われている。さらに、卒業生が「現役教員」として夏休みに在学生の面接指導の応援にも協力してくれている。また、令和5年1月、教職合同説明会「神女教職フェア」を開催し、14自治体教育委員会、135名の本学学生が参加した。このような取り組みは全国的にも初めての試みであり、教育委員会、学生双方からも高評価であった。次年度以降も引き続き開催していきたい。

【大学 教員就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成30年度		平成元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
幼稚園教諭	14	3	12	1	7	1	6	0	2	0
小学校教諭	41	13	34	14	46	16	52	12	50	18
中学校教諭	3	10	7	5	5	5	6	6	10	5
高等学校教諭	0	6	2	3	0	4	2	4	2	1
特別支援学校	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養教諭	3	1	0	4	0	4	0	2	0	3
養護教諭	0	1	0	0	0	5	0	0	0	2
教員計	61	35	55	27	58	35	66	24	64	29
保育士	58	1	45	3	56	0	68	4	68	1

*「保育士」就職者に「こども園」就職者も含む。 *令和4年度の臨時は4月16日現在
*「小学校教諭」就職者に学校教育学専攻科生を含む。

【大学 公立学校教員採用試験の合格者数（新規卒業者）】（単位：名 *合格者数は延べ数）

	平成30年度	平成元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
幼稚園・保育所等	41	32	24	29	16
小学校	59	55	99	102	102
中学校	4	9	6	8	22
高等学校	0	2	0	2	2
特別支援学校	0	0	0	0	0
栄養教諭	5	0	0	0	0
教員計	109	98	129	141	142

*「小学校」に学校教育学専攻科生を含む。

③ 短大

短大では、幼児教育学科1・2年生全員と個別面談を行い、公立幼保就職促進及び就職支援強化を図った。実習中の学生に対しては、教員協力のもと教職支援センターの利用を促していただき、また、各自治体の説明会（オンライン等）への参加を促すなどの支援を行った。さらに、昨年に引き続き、幼児教育学科のカレッジアワー等を活用して教職ガイダンスを実施、また、採用試験直前には土日を利用し、面接練習及び身だしなみ指導等を行った。公立幼保採用試験の1次合格は18名、最終合格は正規2名、臨時任用2名であった。

【短期大学 教員・保育士就職者数の推移（新規卒業者）】

（単位：名）

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時
中学校	0	0	0	0	0	3	0	1		
公立保育所	3	2	2	0	0	1	0	0	0	0
私立保育所	27	0	9	8	8	0	8	0	9	0
公立幼稚園	0	1	0	1	1	0	1	1	2	0
私立幼稚園	5	0	9	14	14	0	14	1	4	0
公立こども園	0	1	1	1	1	0	1	1	1	2
私立こども園	47	0	45	33	33	0	33	0	18	0
施設	2	0	2	3	3	0	3	0	0	0
児童館、学童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	84	4	68	60	60	4	60	4	34	2

(11) 就職支援

① 大学

大学の令和5年3月31日現在の就職率は95.2%、進路決定率は91.3%である。昨年同時点と比べ就職率が0.7%、進路決定率も0.7%低下した。コロナ禍がピークを過ぎ、企業の採用意欲も改善したことにより若干低下したが高い水準を維持することができている。学生対応については対面とオンラインを併用して実施し、きめ細かい支援を行った。

④ 短大

短大の令和5年3月31日現在の就職率は96.3%、進路決定率は92.5%である。昨年同時点と比べ就職率は0.4%低下、進路決定率は1.0%向上した。

学内企業説明会をオンラインで実施し、学生の進路決定に役立てることができた。SPI対策講座をオンライン講座で実施することで、学生の利便性を高めた。

大学、短大ともに、未内定の卒業者に求人情報の提供、相談等の支援を行っている。

※ 「令和5年3月 卒業生の進路状況速報」を巻末に掲載している

(12) 入試広報

① 親密校づくり

高等学校に対し分野別説明会や模擬授業など積極的に参加(147高校)し、学科特色の浸透やPRを強化するとともに高校単位のキャンパス見学会の積極的誘致を行い、7高校の見学会を開催した。

また、高校の総合探求における授業を中心とした連携等に着手しており、令和4年度は3高校(須磨ノ浦・須磨友が丘・県立西宮)を開拓した。

令和5年度入学試験の結果について

(上段: 令和5年度・下段: 令和4年度)

学 科	全 入 試 状 況											
	募集人員	志願者数	前年比	受験者数	前年比	合格者数	前年比	合格倍率	手続者数	辞退者数	入学者数	定員充足率
			(%)		(%)		(%)					(%)
日 文	60	240	53.0%	194	46.3%	82	57.7%	2.4	44	4	40	66.7%
	60	453		419		142		3.0	68	21	47	78.3%
英 米	60	172	66.4%	130	56.0%	50	53.2%	2.6	24	5	19	31.7%
	60	259		232		94		2.5	38	5	33	55.0%
国 際	60	159	66.0%	129	60.6%	54	68.4%	2.4	24	3	21	35.0%
	60	241		213		79		2.7	24	7	17	28.3%
史 学	60	164	41.7%	142	40.5%	65	52.4%	2.2	38	4	34	56.7%
	60	393		351		124		2.8	57	15	42	70.0%
教 育	165	624	66.7%	477	56.4%	155	51.2%	3.1	96	23	73	44.2%
	165	935		846		303		2.8	159	47	112	67.9%
家 政	80	317	74.2%	244	65.6%	103	77.4%	2.4	66	8	58	72.5%
	80	427		372		133		2.8	56	6	50	62.5%
管 栄	150	679	56.3%	535	47.8%	226	67.1%	2.4	158	28	130	86.7%
	150	1,206		1,120		337		3.3	188	35	153	102.0%
福 祉	80	324	115.3%	254	97.7%	96	86.5%	2.6	62	10	52	65.0%
	80	281		260		111		2.3	67	6	61	76.3%
栄 養	80	290	70.4%	239	61.8%	101	81.5%	2.4	78	7	71	88.8%
	80	412		387		124		3.1	73	9	64	80.0%
看 護	90	1,538	69.9%	1,270	61.7%	185	84.5%	6.9	144	35	109	121.1%
	90	2,201		2,059		219		9.4	119	39	80	88.9%
心 理	80	687	83.5%	535	72.8%	188	103.9%	2.8	115	13	102	127.5%
	80	823		735		181		4.1	102	21	81	101.3%
大学合計	965	5,194	68.1%	4,149	59.3%	1,305	70.7%	3.2	849	140	709	73.5%
	965	7,631		6,994		1,847		3.8	951	211	740	76.7%
(前年との差異)		-2,437		-2,845		-542			-102	-71	-31	
総 生	100	213	75.5%	164	65.6%	69	63.9%	2.4	42	0	42	42.0%
	100	282		250		108		2.3	63	2	61	61.0%
食 栄	60	128	39.4%	104	35.3%	48	42.9%	2.2	34	0	34	56.7%
	60	325		295		112		2.6	43	1	42	70.0%
幼 教	80	144	59.5%	108	48.4%	40	49.4%	2.7	22	0	22	27.5%
	80	242		223		81		2.8	44	2	42	52.5%
短大合計	240	485	57.1%	376	49.0%	157	52.2%	2.4	98	0	98	40.8%
	240	849		768		301		2.6	150	5	145	60.4%
(前年との差異)		-364		-392		-144			-52	-5	-47	
総合計	1,205	5,679	67.0%	4,525	58.3%	1,462	68.1%	3.1	947	140	807	67.0%
	1,205	8,480		7,762		2,148		3.6	1,101	216	885	73.4%
(前年との差異)		-2,801		-3,237		-686			-154	-76	-78	

・上記志願者数等の人数には第二志望を含む。

入 学 学 生 数

設 置	種 別	入 学 者 数 等				
		令和4年度		令和5年度		昨年比
		入学者	合格者数	入学者数	入学者	
大 学	学 部	740	1,305	709	95.8%	
	専攻科	1	-	-	-	
	大学院 修士・博前	26	22	22	84.6%	
	大学院 博 後	2	6	6	300.0%	
	編 入 学園内編入	18	4	4	22.2%	
	編 入 一般編入	8	7	6	75.0%	
	計	795	1,344	747	94.0%	
短 大	計	145	157	98	67.6%	
合 計		940	1,501	845	89.9%	

(13) 収益的事業

① オープンカレッジ

大学の知的財産の地域社会への還元を目的とするオープンカレッジは、ミドル・シニア世代を対象としたアカデミックな講座や現代社会においてニーズのある講座を開講しており、人生 100 年時代の生涯学習の場として、また高齢者の社会的孤立を防ぐための居場所となるべく様々な講座を展開している。新型コロナウイルス感染症の影響により、短縮していた時期に比べると回復の兆しが見える。受講者数（年間）延べ 1,796 名、収益は 3,930 千円（前年比 1,193 千円増）となった。

② 貸室（教室・体育館等）

英検等検定試験の試験会場など施設の貸出しは前年度と概ね同じであるが、体育館の利用者団体の見直しをしたため収入は若干減少した。総収入は 3,027 千円（前年比 221 千円減）となった。

③卒業貸衣裳、自販機手数料等

学内に設置する自販機（一部食堂業者が設置するものを除く）においては、昨今の物価高騰のなかで販売価格を据え置き、業者からの手数料を下げることで調整したため、収入減となった。また貸衣裳（袴）の紹介手数料は、前年度より学生数が減少したため収益は減少しているものの、利用率は概ね同じであった。寄附金とは学生への下宿紹介に伴う家主及び管理会社からのものである。

・自販機手数料	628 千円	（前年比	80 千円増）
・貸衣裳紹介手数料	2,673 千円	（前年比	375 千円減）
・自動車教習所紹介	85 千円	（前年比	60 千円減）
・寄付金	840 千円	（前年比	555 千円減）

(14) 幼稚園

神戸市の要請を受け、令和 4 年度より 2・3 号認定児の定員を 10 名から 20 名に拡大するとともに 0 歳児の受け入れを開始した。また、開園 50 周年を迎え、記念式典の開催や記念誌の発刊を行った。

① 在園児数

（令和 4 年 5 月 1 日現在）

区 分	クラス	在園児	入園児	合 計
0 歳児	1	—	1 名	1 名
1 歳児		—	3 名	3 名
2 歳児(満 3 歳児を含む)	1	2 名	3 名	5 名
3 歳児	2	18 名	23 名	41 名
4 歳児	2	47 名	5 名	52 名
5 歳児	2	55 名	0 名	55 名
合 計	8	122 名	35 名	157 名

② 子育て支援

ア 0～2 歳児クラスの保育内容及び環境を整備するとともに子育て支援の充実を図る。

イ にこにこクラブ（兵庫県補助対象事業）

未就園児の親子を対象として、毎週月・火・金曜日に実施した。火曜日は教育実習の一環となっている。

i 幼稚園の生活に向けて、安定した母子分離を図る。

ii 幼児及び保護者の交流を深め、情報交換の場とする。

ウ わくわく幼稚園（兵庫県補助対象事業）

在宅幼児を小学校教育へ円滑に移行させるため、在園児と同等の専門的な幼児教育を計画的に実施する予定だったが、コロナ対応で実施できなかった。

エ みんなの幼稚園（神戸市私立幼稚園連盟補助対象事業）

未就園児が幼稚園の教育及び保育を体験しながら交流を深めるとともに、安定した家族関係をつくることを目的として実施した。コロナの影響で母親教室は実施できなかった。

未就園児親子登園日（64 回） 教育相談（8 回）

園庭・園舎開放（24 回） 母親教室（0 回）

オ 園庭開放

第1・第3水曜日（14:00～16:00）、地域の親子を対象に園庭を開放した。

カ 預かり保育（1号認定児）

ほぼ毎日、7:30 から保育開始まで及び保育終了後から 19:00 まで実施した。

延べ利用日数 233 日 延べ利用人数 3,408 名

③ 地域との関わり

園児が地域行事に参加し、地域の方々と触れ合うことにより、様々な人と関わる力を身に付けている。令和4年度も高倉台ふるさとまつりは開催されなかった。

ア シルバーカレッジの昔あそび研究会との交流・連携

イ 高倉台一人暮らしの方のクリスマス会への参加

ウ 小・中学校との交流・連携 トライやるウィークの中学生受入を再開した。

エ 近隣商業施設での買い物体験

④ 施設の充実

ア ジャングルジム下ゴムチップ舗装

イ 貯蔵式湯沸器更新工事（調理室）

ウ 大規模改修に伴うアスベスト調査

エ 火災報知器及び避難誘導灯改修

オ 汚水柵取換工事

(15) 新型コロナウイルス感染症に対する主な取組み

① 感染者状況（令和5年3月末累計）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まってから令和5年3月末までの間、須磨・P I 両キャンパスで学生・教職員累計 770 名の陽性者が確認された。なお、クラスターの発生はなかった。

② 学内方針の決定・周知

令和4年度についても引き続き学長を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」において、感染症の局面展開に応じて学内方針を検討し、決定した。

ア 新型コロナウイルス感染症拡大の防止に係る大学の取組方針

令和4年6月7日、8月3日、10月27日に本学の取組方針を決定し、教職員・学生への周知を図った。また、令和5年4月以降のコロナ対策の基本的な考え方を令和5年2月28日に決定し、周知を図った。

イ 各種マニュアル・ガイドライン等について

「学内等における新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」、「新型コロナウイルス感染予防のための学生生活ガイドライン」、「Campus Life Guide with COVID-19」、「教育研究活動指針 with COVID-19 2022年度版」について、令和4年6月7日、8月3日、10月27日に各マニュアル・ガイドライン等を改訂し、学生及び教職員への周知を図った。

③ 情報提供

学生及び教職員に対し KISS システムを通じて、都度、コロナウイルスへの対応等に関する最新情報を提供するとともに、ホームページに開設している「新型コロナウイルス感染症対応特設サイト」を通じて本学の取組について広く周知を図った。

④ 感染防止対策

ア 非接触型の体温計を両キャンパス入口に設置し、検温を実施した。

イ 令和4年度前期は「キタカエル・システム」により学生の入構時・帰宅時の時刻チェックを行った。

ウ 学内の全ての教室前、食堂、建物入口等に消毒液を設置し、また、授業終了後に教室内の机等の消毒作業を行った。

エ 食堂等、学生が集中する場所のテーブルに飛沫防止用アクリルパネルを設置した。

⑤ 授業について

令和4年度からは、「教育研究活動指針 with COVID-19」に基づく「授業レベル 1」を適用し、最大限の感染拡大防止策を講じたうえで、面接授業（対面での授業）によることを原則として授業を実施した。

⑥ 学生の経済支援

コロナ禍により影響を受けた学生への経済支援として、国等の修学支援制度とあわせて本学独自の授業料等減免制度による支援を実施した。

本学独自の支援

「特別授業料等減免制度」

家計急変学生に授業料 300,000 円を免除

⑦ 学生の健康支援・相談

ア 感染者と濃厚接触者に対する健康調査の実施、感染拡大防止のための行動制限等の保健指導

イ 一般学生に対する感染情報の提供や感染防止行動の啓発

ウ 学生の健康相談や不安解消のためのカウンセリングの実施

エ 保健管理委員会との情報共有

Ⅲ 財務の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
固定資産	27,287,000	27,661,009	28,458,944	28,711,988	28,094,320
流動資産	8,327,132	7,906,726	6,994,230	6,530,537	6,251,490
資産の部合計	35,614,132	35,567,735	35,453,174	35,242,525	34,345,810
固定負債	1,482,695	1,472,268	1,505,848	1,523,196	1,522,862
流動負債	1,270,319	1,132,531	1,056,590	1,089,288	986,676
負債の部合計	2,753,014	2,604,799	2,562,438	2,612,484	2,509,538
基本金	45,096,146	45,296,563	45,459,594	45,855,501	45,999,448
繰越収支差額	△ 12,235,028	△ 12,333,627	△ 12,568,858	△ 13,225,460	△ 14,163,176
純資産の部合計	32,861,118	32,962,936	32,890,736	32,630,041	31,836,272
負債及び純資産の部合計	35,614,132	35,567,735	35,453,174	35,242,525	34,345,810

イ) 財務比率の経年比較

比率	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
運用資産余裕比率	164.0%	171.8%	163.7%	169.7%	163.7%
流動比率	655.5%	698.1%	662.0%	599.5%	633.6%
総負債比率	7.7%	7.3%	7.2%	7.4%	7.3%
前受金保有率	733.9%	801.2%	737.0%	705.5%	763.3%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
積立率	49.6%	50.0%	49.4%	50.1%	46.0%

(2) 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	5,242,549	5,371,462	5,299,372	4,897,137	4,512,189
手数料収入	127,834	108,832	74,502	77,217	66,199
寄付金収入	10,716	9,749	22,561	4,873	20,083
補助金収入	386,769	495,851	789,897	940,913	830,377
資産売却収入	623,707	420	62,500	125,000	125,000
付随事業・収益事業収入	108,663	109,932	68,410	104,879	94,949
受取利息・配当金収入	4,782	6,667	15,399	29,817	29,503
雑収入	253,863	324,268	428,638	306,643	299,567
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,106,701	956,999	891,196	883,081	784,726
その他の収入	1,936,277	1,770,868	2,810,774	2,090,151	1,855,450
資金収入調整勘定	△ 1,371,182	△ 1,324,926	△ 1,363,719	△ 1,168,654	△ 1,123,505
前年度繰越支払資金	8,143,516	8,121,577	7,667,919	6,568,362	6,230,228
収入の部合計	16,574,195	15,951,699	16,767,449	14,859,419	13,724,766

支出の部	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	3,865,071	3,948,984	4,024,590	3,861,593	3,943,446
教育研究経費支出	1,177,881	1,161,089	1,532,409	1,410,367	1,480,513
管理経費支出	525,492	484,399	488,373	667,641	550,281
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	124,701	59,650	77,512	242,491	56,514
設備関係支出	118,084	155,062	96,128	170,517	90,168
資産運用支出	1,201,614	1,201,614	2,428,821	929,576	332,578
その他の支出	1,571,107	1,399,629	1,664,129	1,488,384	1,428,507
資金支出調整勘定	△ 131,332	△ 126,647	△ 112,875	△ 141,378	△ 146,972
翌年度繰越支払資金	8,121,577	7,667,919	6,568,362	6,230,228	5,989,731
支出の部合計	16,574,195	15,951,699	16,767,449	14,859,419	13,724,766

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	6,130,394	6,419,908	6,666,557	6,331,190	5,823,363
教育活動資金支出計	5,568,445	5,594,472	6,045,373	5,939,600	5,974,237
差引	561,950	825,437	621,183	391,588	△ 150,874
調整勘定等	△ 53,510	△ 178,881	△ 264,705	146,095	△ 54,741
教育活動資金収支差額	508,440	646,556	356,478	537,683	△ 205,615
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	323,707	300,606	316,822	300,472	300,000
施設整備等活動資金支出計	542,785	514,712	473,639	713,008	446,683
差引	△ 219,078	△ 214,106	△ 156,818	△ 412,536	△ 146,683
調整勘定等	△ 3,421	0	1,889	1,287	△ 3,176
施設整備等活動資金収支差額	△ 222,499	△ 214,106	△ 154,929	△ 411,249	△ 149,859
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	285,941	432,450	201,549	126,434	△ 355,474
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,038,767	1,296,381	2,370,448	1,538,248	1,432,495
その他の活動資金支出計	2,346,648	2,182,487	3,671,556	2,002,816	1,317,519
差引	△ 307,881	△ 886,106	△ 1,301,107	△ 464,568	114,977
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 307,881	△ 886,106	△ 1,301,107	△ 464,568	114,977
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 21,940	△ 453,657	△ 1,099,557	△ 338,134	△ 240,497
前年度繰越支払資金	8,143,516	8,121,576	7,667,919	6,568,362	6,230,228
翌年度繰越支払資金	8,121,576	7,667,919	6,568,362	6,230,228	5,989,731

ウ) 財務比率の経年比較

比率	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動資金収支差額比率	8.3%	10.1%	5.3%	8.5%	△3.5%

(3) 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	5,242,549	5,371,462	5,299,371	4,897,137	4,512,189
	手数料	127,833	108,832	74,502	77,217	66,198
	寄付金	10,716	9,960	22,561	4,873	20,083
	経常費等補助金	386,769	495,665	773,075	940,441	830,377
	付随事業収入	108,663	109,932	68,409	104,879	94,949
	雑収入	253,863	324,647	435,144	306,643	299,567
	教育活動収入計	6,130,393	6,420,498	6,673,062	6,331,189	5,823,363
	事業活動支出の部					
	人件費	3,917,006	3,938,936	4,064,676	3,878,941	3,943,112
	教育研究経費	1,850,366	1,835,522	2,162,113	1,998,167	2,089,385
	管理経費	590,387	548,085	549,617	732,294	613,202
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	6,357,759	6,322,543	6,776,406	6,609,402	6,645,699
教育活動収支差額	△ 227,366	97,955	△ 103,344	△ 278,213	△ 822,336	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	4,782	6,667	15,399	30,153	29,839
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	4,782	6,667	15,399	30,153	29,839
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	4,782	6,667	15,399	30,153	29,839	
経常収支差額	△ 222,584	104,622	△ 87,945	△ 248,060	△ 792,497	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	3,908	1,733	19,802	3,563	2,720
	特別収入計	3,908	1,733	19,802	3,563	2,720
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	147,156	4,538	4,057	16,198	3,991
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	147,156	4,538	4,057	16,198	3,991
特別収支差額	△ 143,248	△ 2,805	15,745	△ 12,635	△ 1,271	
基本金組入前当年度収支差額	△ 365,832	101,817	△ 72,200	△ 260,695	△ 793,768	
基本金組入額合計	△ 73,999	△ 200,417	△ 163,031	△ 395,907	△ 143,947	
当年度収支差額	△ 439,831	△ 98,600	△ 235,231	△ 656,602	△ 937,715	
前年度繰越収支差額	△ 11,795,198	△ 12,235,028	△ 12,333,627	△ 12,568,858	△ 13,225,460	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 12,235,029	△ 12,333,627	△ 12,568,858	△ 13,225,460	△ 14,163,175	
(参考)						
事業活動収入計	6,139,083	6,428,898	6,708,263	6,364,905	5,855,922	
事業活動支出計	6,504,915	6,327,081	6,780,463	6,625,600	6,649,690	

イ) 財務比率の経年比較

比率	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費比率	63.8%	61.3%	60.8%	61.0%	67.4%
教育研究経費比率	30.2%	28.6%	32.3%	31.4%	35.7%
管理経費比率	9.6%	8.5%	8.2%	11.5%	10.5%
事業活動収支差額比率	△6.0%	1.6%	△1.1%	△4.1%	△13.6%
学生生徒等納付金比率	85.5%	83.6%	79.2%	77.0%	77.1%
経常収支差額比率	△3.6%	1.6%	△1.3%	△3.9%	△13.5%

2. その他

(1) 有価証券の状況

(単位：千円)

種 類	当年度（令和5年3月31日）		
	貸借対照計上額	時価	差額
債 券	1,799,077	1,716,267	△ 82,810
株 式	—	—	—
投資信託	—	—	—
貸付信託	187,500	187,275	△ 225
そ の 他	—	—	—
合 計	1,986,577	1,903,542	△ 83,035
時価のない有価証券	1,438		
有価証券合計	1,988,015		

(2) 借入金の状況 該当なし

(3) 学校債の状況 該当なし

(4) 寄付金の状況

(単位：千円)

科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
寄付金収入	10,716	9,749	22,561	4,873	20,083
特別寄付金収入	6,558	6,769	7,138	1,933	18,108
教育研究特別寄付金収入	2,858	2,279	2,242	988	16,108
施設設備寄付金収入	0	0	0	0	0
奨学研究助成金収入	500	600	600	0	0
公募研究助成金収入	3,200	3,890	4,296	945	2,000
一般寄付金収入	4,158	2,980	15,423	2,940	1,975
一般寄付金収入（保証人）	3,140	1,900	580	470	610
個人寄付金収入（その他）	610	730	10,493	1,665	965
法人寄付金収入（その他）	408	350	4,350	805	400

(5) 補助金の状況

(単位：千円)

科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
補助金収入	386,769	495,851	789,897	940,914	830,377
国庫補助金収入	335,836	440,851	722,985	726,466	641,956
国庫補助金収入(教)	335,836	440,851	486,010	499,793	429,929
国庫補助金収入(施)	0	0	12,130	0	0
授業料等減免費交付金	0	0	224,845	226,673	212,028
地方公共団体補助金収入	50,932	54,001	66,912	35,165	37,018
地公体補助金収入(教)	50,932	53,815	62,220	34,693	37,018
地公体補助金収入(施)	0	186	4,692	472	0
施設型給付費収入	0	0	0	179,282	151,403
学術研究振興資金収入	0	1,000	0	0	0

(6) 収益事業の状況 該当なし

(7) 関連当事者との取引の状況

ア) 関連当事者 該当なし

イ) 出資会社 該当なし

(8) 学校法人間財務取引 該当なし

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和4年度における事業活動収入は、学生数前年比「△322名」による学生生徒等納付金「385百万円」の減少、収容定員未充足に伴う経常費等補助金「110百万円」の減少により、前年比「△509百万円」となった。

事業活動支出は、人件費が前年比「+64百万円」、教育研究経費が前年比「+91百万円」、管理経費が前年比「△119百万円」となったことにより、「36百万円」の増加となった。これは、光熱水費「53百万円」の増加、前年度心理学部設置に伴う費用「△193百万円」が大きな要因である。

以上により、基本金組入前当年度収支差額は「△793百万円」となり、前年比「△533百万円」の赤字基調となった。基本金組入額は「△144百万円」、これにより当年度収支差額は「△937百万円」の支出超過となり、前年比では「△281百万円」となった。

令和5年度の学生募集は、大学が入学定員「965名」に対して入学者数「709名」、短期大学が入学定員「240名」に対して入学者数「98名」となり、全体の学生数は前年比「△257名」となった。入学者数(学生数)の減少が直接収支に影響している。令和5年度予算においては経常費10%削減により支出を抑制し、令和6年度からは学生募集対策として入学金の減額を含む学費改定を行う。これらと入学定員の充足により収支の改善を図りたい。



「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

<https://www.yg.kobe-wu.ac.jp>

Tel :078-303-4712

Fax:078-303-4713